

医学部ウォーカー

1 図：弘前大学COIヘルシーエイジング・イノベーションフォーラム
2019 2 図：医学研究科長・医学部長寄稿/4th International MIST
Congress Best Paper Awardを受賞して/第23回整形・災害外科優
秀論文賞受賞報告/令和元年年度精神科看護学を志す会優秀論文
賞を受賞して/第16回日本中子補綴療法学会学術大会ベストプレゼン
テーション賞を受賞して/第44回日本足の外科学会地域域域研修医
育推進賞を受賞して/第2回日本整形外科学会学術大会学術奨励賞
特別賞を受賞して/若手奨励賞を受賞して/5 図：第2回COI学会に
おいて優秀賞を受賞して/令和元年年度教育に関して優れた業績を上げ
た教員を受賞して/6 図：林学学生部誌/解題/解題/解題/弘前大
学 腫瘍医学への貢献/記念石碑の設置/7 図：弘前大学医学部スク
ーリング/中学生と医師との交流プログラム/医学部2019を終えて/8
図：医学研究科公開講座メンタルヘルスの関係報告/医学研究科
費集・医療講演会の報告/市民公開講座身近な疾患の治療を開催し
て/新研究の国際カンファレンスを開催して/9 図：国体セーリング
競技に参加して/留学だより/10 図：若手教員/医師だより/書あ
りまし温泉紀行/11 図：学生だより/新研究発表を終えて/12~13 図：
留学だより/ハワイ大学・三沢米軍基地/14 図：海外臨床研修を体験
して/15 図：部活動紹介/網道部、空手道部、Medical Cool Quartet
16 図：学芸会/東日本科学体育大会東北東北を代表して/研究
室紹介/放射線医学講座/17 図：研究室紹介/放射線診断学講座/テ
レビに出演して/18 図：人事異動

題字 前弘前大学長 遠藤正彦氏筆



佐藤学長



柏木副知事



櫻田弘前市長



松田ビジョナリーリーダー

弘前大学と青森県、弘前市は、科学技術振興機構（JST）共催のもと、十月四日（金）、「弘前大学COIヘルシーエイジング・イノベーションフォーラム2019」を一橋講堂（東京都千代田区）で開催しました。

まずは本フォーラムの開催にご尽力をいただきました学内外の先生方、参画機



菱山文部科学省科学技術・学術政策局長



中路先生



明治安田生命 鈴木会長

一、二階ともに満席、立ち見が出るほどの賑わいとなりました。フォーラムでは、『健康BD』と『新健診モデル』でQOL&GNHを最大化しSDG

sへ貢献することを目的として、最先端の研究成果等を紹介したほか、社会実装の進捗状況など、



会場の様子



ミルテル 田原会長



浜内先生



小宮山先生

産学官民各界の第一線で活躍している関係者が参集し、ご発表いただくとともに、熱い議論が展開されました。開会にあたり、弘前大学長 佐藤敬先生、青森県副知事 柏木司氏、弘前市長 櫻田宏氏からご挨拶いただきました。来賓を代表して、文部科学省 科学技術・学術政策局長 菱山豊氏、COI STREAM ビジョナリーリーダー（元協和発酵キリン社長）松田譲氏よりご挨拶を頂戴しました。

特別講演では三人の演者が登壇し、明治安田生命保険相互会 取締役会長 木仲弥氏が「健康コンシェルジュ」としての新たな生保モデ

型健診（新健診モデル）やその取り組みについて発表されました。

「ビッグデータ研究最前線」では、京都大学大学院医学研究科 奥野恭史先生、東京大学医学研究所 井元清哉先生、東京大学大学院医学系研究科 平川晃弘先生、東京大学大学院情報学環 上村鋼平先生、東京大学大学院薬学系研究科 五十嵐中先生が研究の進捗等についてご発表、続いての「データ連携最前線」では、九州大学大学院医学研究科 二宮利治先生、京都府立医科大学大学院医学研究科 的場聖明先生、和歌山

「ビッグデータ研究最前線」では、京都大学大学院医学研究科 奥野恭史先生、東京大学医学研究所 井元清哉先生、東京大学大学院医学系研究科 平川晃弘先生、東京大学大学院情報学環 上村鋼平先生、東京大学大学院薬学系研究科 五十嵐中先生が研究の進捗等についてご発表、続いての「データ連携最前線」では、九州大学大学院医学研究科 二宮利治先生、京都府立医科大学大学院医学研究科 的場聖明先生、和歌山

「データ連携最前線」では、九州大学大学院医学研究科 二宮利治先生、京都府立医科大学大学院医学研究科 的場聖明先生、和歌山

「データ連携最前線」では、九州大学大学院医学研究科 二宮利治先生、京都府立医科大学大学院医学研究科 的場聖明先生、和歌山

「データ連携最前線」では、九州大学大学院医学研究科 二宮利治先生、京都府立医科大学大学院医学研究科 的場聖明先生、和歌山

「データ連携最前線」では、九州大学大学院医学研究科 二宮利治先生、京都府立医科大学大学院医学研究科 的場聖明先生、和歌山



ポスター展示会場

「データ連携最前線」では、九州大学大学院医学研究科 二宮利治先生、京都府立医科大学大学院医学研究科 的場聖明先生、和歌山



パネルディスカッションの様

「データ連携最前線」では、九州大学大学院医学研究科 二宮利治先生、京都府立医科大学大学院医学研究科 的場聖明先生、和歌山

「データ連携最前線」では、九州大学大学院医学研究科 二宮利治先生、京都府立医科大学大学院医学研究科 的場聖明先生、和歌山

「データ連携最前線」では、九州大学大学院医学研究科 二宮利治先生、京都府立医科大学大学院医学研究科 的場聖明先生、和歌山

弘前大学COI

弘前大学COIヘルシーエイジング・イノベーションフォーラム2019

弘前大学COI研究推進機構 教授 / COI副拠点長(戦略統括) 村下公一

パネルディスカッションでは「人生100年時代の健康未来を考える」をテーマに、株式会社宮田総研代表取締役 宮田満氏をモデレーターとし、COI総括ビジョナリーリーダー代理/名古屋大学医学部附属病院先端医療開発部 先端医療・臨床研究支援センター長 水野正明先生がアドバイザー、社会実装リレーの演者がパネラーとなって議論を交わしました。拡大する産学官民連携チームと社会実装の現状に対し、パネラーからは期待とともに、絞り込んだうえでのさらなる推進といった提言もあり、貴重な意見交換の場となりました。

開会にあたり、弘前大学副学長（COI担当） 医学研究科長の若林孝一先生が挨拶され、大盛況のうちに幕を閉じました。

弘前大学COIは今後も、参画機関、ご関係の皆様、学内外の先生方のご指導・ご協力を賜りながら、本事業のさらなる推進、真の健康オーブンイノベーションの実現、SDGsへの貢献を目指し、躍進して参ります。引き続きご指導願います。引き続きご指導願います。

長崎 科 研 学 医
部 学 研 究 医

弘前大学COIの十年後

医学研究科長 若林孝一



弘前大学COI（以下COI）は今年で七年目を迎

え、これまで二度の中間評価ではいずれも最高評価を受けました。その実績が認められ、健康未来イノベーションセンターが建設され、最近では第一回日本オープンイノベーション大賞の内閣総理大臣賞受賞にも結び付いたところですが、しかし、残り二年となり、将来的な課題がないわけではありません。今回はCOIの将来像について述べてみたいと思います。

岩木健康増進プロジェクト健診は一五年目となり、測定項目は二千を優に超えています。まさに世界最強の健康ビッグデータであり、多くの企業が参画している理由もそこにあります。現在はこのビッグデータ解析を東大や京大の解析チームに依頼しています。が、自前のデータサイエンティストがいれば、これに越したことはありません。

COIは研究だけを目的とした事業ではありません。研究業績という点でも伸びています。二〇一九年度だけでCOIデータを元にした論文は二〇編を超えており、今後増えてゆくことは確実です。現在、COI関連の共同研究講座は一

三講座が設置され、その総額は年間三億円余となっております。共同研究講座の設置は人材のみならず間接経費という点でも医学研究科の支えとなっております。また、若手ファンドも六件採択され、若手研究者の支援ともなっています。

今後、ポストCOIにおいて産官学民の連携をより強固にしてゆくためには、プラットフォームが必要で、岩木健診のビッグデー

タに興味があるのは研究者と企業であり、一般住民や自治体に関心を持つプラットフォームを作る必要があります。その中核の一つは大学においては健康未来イノベーションセンターですが、COIの活動が自立化、持続化してゆくためには青森県などの協力も得て、COI事業を継承する組織（学外の法人組織）が必要でしょう。COIの大きな目標とし

て短命県返上があります。その達成にはまだ時間がかかりそうですが、青森県男性の平均寿命の伸び幅（平成二二〜二七年）は全国三位であり、着実な進展が見られています。COI事業が、少なくとも医学研究科にとつては研究力の向上と研究費の獲得に結びつく活動であり続けることを期待したいと思います。そのためにも、やはり岩木健診を継続してゆくことが必要です。今後とも各講座、診療科の皆様にはご支援を賜りますようお願いを申し上げます。

4th International MIST Congress
Best Paper Awardを受賞して

整形外科 講師 熊谷玄太郎

このたびは二〇一九年十月六日に東京で行われた4th International MIST Congress（国際最少侵襲脊椎治療学会）において年間最優秀論文賞を受賞することができましたので、報告させていただきます。このような栄誉ある賞を頂き、大変光栄に存じます。今回受賞した論文は「Association between skin trouble of percutaneous pedicle screw and subcutaneous vascular structures using MRI study in patients after thoracolumbar fractures. (MRI of the STIR image using the thoracic vertebral fracture surgery example in the skin blood vessel evaluation and skin incision wound healing)」という論文名でした。本研究は脊椎を固定する器

具であるPedicle screw (PS)を用いて脊椎手術を行った胸腰椎損傷例の術前MRIのSTIR画像における皮下血管構造を後ろ向きに調査し、皮膚障害との関連を検討したものです。皮下血管構造はSTIR画像の矢状断像にて椎弓根高位でScrew刺入部の皮下に

高頻度に認めました。除圧のための正中縦皮切と経皮的PS挿入のための傍正中の縦皮切の併用することで、二例で術後に皮膚壊死が生じていました。この機序は、PS刺入部の皮下血管構造が損傷されることで、皮膚の血流障害が生じ、創傷治癒に影響を与え



授賞式にて 写真は右から青森県立中央病院の富田卓先生、私、選考委員長の関西医大小谷善久先生

「第23回整形・災害外科優秀論文賞」受賞報告

むつ下北地域医療学講座 講師 大鹿周佐

この度は、私が整形・災害外科に投稿した論文「超音波検査による軟部腫瘍内の血流及び弾性の評価」(整・災外 61:101-106, 2018)が、二〇一八年度整形・災害外科の優秀論文賞に選出されたことを報告申し上げます。



軟部腫瘍は画像診断が難しい疾患であり、一般整形外科医のみならず骨・軟部腫瘍専門医であっても誤診することがあります。日整会が監修した「軟部腫瘍診療ガイドライン2012」では、超音波検査の推奨・根拠のGradeはCであり、未開拓の分野でした。本研究

究は、超音波機器Aplio500（東芝メディカルシステムズ社）が当院に導入された二〇一六年三月より開始となりました。当時、整形外科領域における超音波検査の有用性を強く感じていた石橋教授が、新規の血流及び弾性の評価が可能な本機種を、軟部腫瘍の診断に応用するよう指示して下さいました。

新規の血流評価法であるSuperb-Microvascular Imaging (SMI)は、カラードプラやパワードプラ

このことは、今後の脊椎手術治療において非常に参考になる結果だと思います。この研究は、皮膚壊死の合併症が生じた際に、整形外科カンファレンスで、なぜこのような合併症が生じたかと、石橋教授に指摘していただいたことが始まりです。Screw刺入部位の解剖の教科書を読みなおし、MRI所見を見直し、皮下血管構造の存在と、Screw挿入による損傷リスクがあることに気づきました。この結果を学会発表、論文化まででき、優秀論文賞としてご評価いただいたことは、非常にうれしく思います。最後になりましたが、ご指導くださった石橋恭之教授をはじめ、脊椎グループの皆様、関係者の皆様に深く感謝を申し上げます。

で捉えにくい低流速の血流を評価できます。従来は血流の分布で軟部腫瘍の良悪性を判定するのが一般的でしたが、本研究ではSMIを用いて血流の面積を定量化する方法を試みました。また、新規の弾性評価法であるShear Wave Elastography (SWE)は、従来法のStrain Elastographyより簡便な上に、硬さを絶対値として数値化できます。これらSMI、SWEともに軟部腫瘍の領域ではまだ報告がなかったため、これは

で捉えにくい低流速の血流を評価できます。従来は血流の分布で軟部腫瘍の良悪性を判定するのが一般的でしたが、本研究ではSMIを用いて血流の面積を定量化する方法を試みました。また、新規の弾性評価法であるShear Wave Elastography (SWE)は、従来法のStrain Elastographyより簡便な上に、硬さを絶対値として数値化できます。これらSMI、SWEともに軟部腫瘍の領域ではまだ報告がなかったため、これは

令和元年度糖尿病性神経障害を考える会 優秀演題賞を受賞して

分子病態病理学講座 助手 遅野井 祥

二〇一九年八月三十日に東京で開催された令和元年度糖尿病性神経障害を考える会にて優秀演題賞を拝受しましたのでご報告いたします。

糖尿病はインスリンの枯渇または相対的な作用不足により体が糖を正常に利用

できなくなる病気です。現在では血糖値を下げる治療法には有効かつ多種多様の選択肢が存在しますが、年齢・生活習慣と遺伝因子が織りなす2型糖尿病の病態は複雑であり、その合併症の発症予防における血糖管理は必要条件ではあるもの

の十分条件ではないことが明らかとなっております。糖尿病性神経障害(DPN)は最も罹患率が高く早期に発症する糖尿病合併症であり、下肢の痛みや痺れによりQOLを低下させ、糖尿病性足壊疽や下肢切断の

チャンスと思いい研究を開始しました。研究を始める前は超音波機器を使用した経験がなく、操作に不慣れな上に評価基準の設定を試行錯誤していたため、当初は患者一人に二十〜三十分はかかりました。金曜日の午前は超音波外来として、リハビリテーション外来の診察室をかりてじっくり観察していただきました。津田先生はじめリハスタッフの厚意に感謝しております。慌てずに地道に症例を積み重ね、学会発表や論文作成が可能になりました。最終的に、悪性軟部腫瘍は血流が豊富で硬いため、SMIとSWEを評価することで診断精度が向上するという結論に至りました。もちろん、血流が乏しくて軟らかい悪性軟部腫瘍も存在するため注意が必要です。本研究の内容が、皆様の日常診療の一助になれば幸いです。

最後に、本研究を行う上でご指導・ご支援をいただきました石橋教授をはじめ大学スタッフの皆様にご場を借りて感謝申し上げます。(次ページへ続く)

(前ページより)
原因となる上、高度の心血管自律神経障害を来した際には直接的に予後を左右します。しかし、DPNにおける病態に則した有効な治療法は限られており、新しいアプローチによる治療法の開発が期待されています。

分子病態病理学講座では八木橋操六前教授の代よりDPNに関する基礎研究を国内外に発信して参りました。私は学部三年の研究室研修から水上浩哉教授にご指導を賜り、現在は助手・大学院生として内分泌代謝内科の臨床と並行して基礎研究に従事しています。研究テーマはDPNにおけるマクロファージ(MΦ)を介した炎症の関与です。糖尿尿病に伴う軽度の全身性炎症はインスリン抵抗性や合併症の発症に関わり、その機序はMΦを介することが報告されています。MΦには炎症性M1と抗炎症性M2が存在し、その極性バランスの乱れが様々な疾患の病態に関与しています。我々は糖尿病マウスの坐骨神経にはM1が優位に浸潤していることを見出し、私達はマウスと培養細胞を用いた実験により、M1由来の炎症性サイトカインが末梢神経の軸索内輸送を障害することを証明し、今回の学会にて報告いたしました。今後はこの研究を炎症をターゲットとしたDPNの新規治療法へと発展させて行けるよう精進して参ります。

この研究は八木橋前教授、水上教授のご指導と大門眞教授を始めとした内分泌代謝内科の先生方のご理解のもと、教職員や研究室研修の皆様にお力添えを頂

第140回日本医学放射線学会北日本地方会 優秀演題賞
第16回日本中性子捕捉療法学会学術大会 ベストプレゼンテーション賞
W受賞して

放射線治療科 助教 佐藤 まり子

二〇一九年六月二十一日(二十二日)に開催されました第百四十回日本医学放射線学会北日本地方会、および九月七日(八日)開催の第十六回日本中性子捕捉療法学会学術大会において、それぞれ優秀演題賞、ベストプレゼンテーション賞を受賞いたしましたので御報告申し上げます。



放射線腫瘍学講座では、二〇一八年度より青森県の委託研究として、六ヶ所村に開設した青森県量子科学センター(QSC)にてホウ素中性子捕捉療法(BNCT)による抗腫瘍効果の

きながら進めています。急速に進歩する現代の科学に多忙な臨床医が一人でついていくことは容易ではないと思います。しかし、臨床におけるチーム医療という概念と同様に、研究も異なる知識や技術を持ち寄ったチームで深めていくことが

できました。医師は臨床を科学に投影できるユニークな存在。Physician Scientistとなるのだと信じています。日頃お世話になっているすべての皆様にこの場を借りてお礼を申し上げます。

C T研究センターに世界で初めて病院併設型加速器システムが設置されました。再発悪性脳腫瘍並びに頭頸部癌を対象とした第II相試験が完了してその実用化は目前に迫っており、難治性腫瘍に対する新たな治療選択肢としての役割が大いに期待されているところで

今回、これまでよくわかっていなかったBNCTによる抗腫瘍免疫環境の変化を解明する基礎実験を行い、その成果を両学会で報告いたしました。通常の放射線治療においては、抗腫瘍免疫を誘導する細胞死である免疫原性細胞死を生じます。これはダメージ関連分子パターンと呼ばれるcalreticulinの細胞表面発現やhigh mobility group box1(HMGB1)の細胞外分泌を介して惹起されることが知られていますが、BNCTでは、これらがX線照射と比較して非常に強力に誘導されることを明らかにしました。さらに、BNCT後の腫瘍細胞表面には免疫チェックポイントであるprogrammed death-ligand 1(PDL1)発現が増強していることも発見し、抗PDL1抗体が有効に作用しうる環境が誘導されている可能性が示唆されました。

青森県QSCは、その立ち上げから当講座も関与・協力してきたこともあって、ここでの研究成果を発表できたこと、さらには大変名誉ある賞まで賜ることができたことに、感慨も入ります。私自身、BNCTに関する研究を始めてまだ日が浅く、日本中性子捕捉療法学会学術大会での発表も初めてでしたが、BNCT界における日本最高峰の

第44回日本足の外科学会
地域別研修医報告最優秀賞を受賞して
医学科五年 倉 諒 登

今回、二〇一九年九月二十六日から二十七日まで、札幌市で開催された第四十四回日本足の外科学会に参加させていただきました。学会一日目の開会式前に、地域別研修医報告という研修医と学生を対象としたセッションが企画されており、その発表があり、そこで発表させていただき、最優秀賞を受賞することができました。



発表内容は「若年スポーツ選手に生じた足関節内果疲労骨折の治療成績」についてです。足関節内果疲労骨折は比較的まれな骨折です。今回、弘前大学整形外科で治療を行った十七例十八足の治療内容とスポーツ

復帰までの期間について調べて報告しました。足関節内果の疲労骨折には骨折の進行度によりstage 1から4に分類されており、4に分類されているstage 4では、不全骨折であれば手術治療を要し、スポーツ復帰まで長期間かかります。通常、保存療法を行います。保存療法を行いますが、内果前方と距骨頸部内側に骨棘を有するものでは、保存療法に抵抗する可能性のあることを報告しました。

早朝に行われたセッションでしたが、一番大きなメインの会場で、審査員の先生と多くの聴衆がいることに緊張しました。しかし、発表の後には、会場の先生方からの質問も多数あり、非常に嬉しく思いました。今回このような機会を与えてくださった石橋教授をはじめとする弘前大学整形外科学講座の全ての方々、この場をかりて感謝申し上げます。



ました。BNCTは、腫瘍細胞へ取り込まれる一方で正常細胞へは集積しないという特徴を持つホウ素製剤を利用した、腫瘍細胞選択的な放射線治療です。ホウ素化合物を投与して中性子線を照射すると、腫瘍細胞内に集積したホウ素が熱中性子を捕捉し、¹⁰B(n,α)⁷Li反応が起こります。これによって生じるα線やLi粒子が腫瘍細胞のDNAを損傷して細胞死をきたしますが、その飛程距離はそれぞれ約9μm、5μmであるために、ホウ素を取り込んでいる周囲の正常細胞への障害が極めて少ないのが特長です。これまで、中性子線照射に原子炉を必要とするのがBNCT普及の大きな足枷となっていました。当講座の前教授である高井良尋先生がセン

ター長を務める南東北BNCT研究センターに世界で初めて病院併設型加速器システムが設置されました。再発悪性脳腫瘍並びに頭頸部癌を対象とした第II相試験が完了してその実用化は目前に迫っており、難治性腫瘍に対する新たな治療選択肢としての役割が大いに期待されているところで

今回、これまでよくわかっていなかったBNCTによる抗腫瘍免疫環境の変化を解明する基礎実験を行い、その成果を両学会で報告いたしました。通常の放射線治療においては、抗腫瘍免疫を誘導する細胞死である免疫原性細胞死を生じます。これはダメージ関連分子パターンと呼ばれるcalreticulinの細胞表面発現やhigh mobility group box1(HMGB1)の細胞外分泌を介して惹起されることが知られていますが、BNCTでは、これらがX線照射と比較して非常に強力に誘導されることを明らかにしました。さらに、BNCT後の腫瘍細胞表面には免疫チェックポイントであるprogrammed death-ligand 1(PDL1)発現が増強していることも発見し、抗PDL1抗体が有効に作用しうる環境が誘導されている可能性が示唆されました。



最後に、日々の診療・研究に対し御指導くださった石橋教授の先生方、先が見えず苦しい時にも一緒に研究を進めてくださった先生方、さらに、無理を言ってもいつでもあたたかく迎えてくださるQSCのスタッフの皆様、この場を借りて感謝申し上げます。今後、弘前大学放射線腫瘍学講座からBNCTの発展に寄与できるよう、邁進して参ります。

第2回櫻井記念医学研究賞授賞式

医学研究科長 若林孝一

櫻井記念医学研究賞は株式会社九大サクラキ薬局（代表取締役・櫻井清氏）からのご寄付を原資として平成二十九年度に設立された研究助成であり、平成三〇年度から運用を開始した。特別賞は一件三百万円以内、若手奨励賞は二件百万円以内としており、選考にあたっては、これまでの国際共同研究の実績だけでなく、今後の研究計画を審査し、受賞者には研究論文を成果として求めることにしている。第二回となる今年度は五月に公募を開始し、特別賞には一名、若手奨励賞には三名の応募があった。研究推進委員会における選考の結果、特別賞にはゲノム生化学講座の藤井穂高教授（研究課題：GAR P蛋白質の発現異常による病態発現機構の解析）を、若手奨励賞には胸部心臓血管外科科学講座の齊藤良明助教（研究課題：虚血性僧帽弁逆流に対する多角的アプローチを応用した自己弁温存大動脈基部置換術における大動脈基部形態の三次元評価と大動脈血流に関する研究）、子どものころの発達研究センターの高橋芳雄特任講師（所属および職階は受賞時）の二名を決定した。



第2回櫻井記念医学研究賞授賞式

若手奨励賞を受賞して

胸部心臓血管外科科学講座 助教 齊藤良明

この度の第二回櫻井記念医学研究賞受賞に際しまして、本学に多額のご寄付を頂きましたサクラキ薬局の櫻井ご夫妻とご多忙の中選考に腐心してくださいました選考委員の皆様方に深く感謝申し上げます。

二〇一八年七月に二年の研究留学を終えて帰国してから現在まで、臨床活動のプランクを埋めるために努力してまいりました。そんな中、本年六月に櫻井記念医学研究賞の公募を見ま

ないような斬新なアイデアが生まれる場に立ち会うことができました。国際共同研究の促進という目的は、こうした交流を加速させることを目指すという点で、素晴らしい着眼点であると思います。また、昨今、海外に留学する日本人研究者が減っているという憂慮すべき状況にあります。国際共同研究は、一朝一夕でできるものでなく、国を越えた研究者の信頼構築作業を経た息の長いステップが必要だと思います。このような助成金があることで、特に若い研究者が海外に目を向けるきっかけになり、共同研究の種を播く端緒となりうるという点でも、誠に時宜に叶ったものであると考えます。

今回助成いただく研究テーマは、「GAR P蛋白質の発現異常による病態発現機構の解析」です。GAR P蛋白質は、私が米国・ニューヨーク大学医学部在籍時に、同僚だった Derya Unutmaz 博士（現 Jackson

若手奨励賞を受賞して

保健学研究科 総合リハビリテーション科学領域 准教授 高橋芳雄

この度、「子どもの睡眠に関して朝型夜型（クロノタイプ）が行動・情緒に与える影響の日中両国間での検討」という研究課題で第二回櫻井記念医学研究賞若手奨励賞を受賞いたしました高橋芳雄と申します。このような賞をいただきましたこと、誠に光栄に存じます。また、これまでの研究を支えていただいた、中村和彦教授、栗林理人教授、齊藤まなぶ准教授、足立匡基准教授をはじめとして、子どものころの発達研究センター並びに神経精神医学講座の先生方、また共同研究者の上海交通大学小児医療センターの Wang 先生に厚くお礼申し上げます。

今回受賞した研究テーマは、アジア地域の子供の睡眠習慣や睡眠の問題の比較に関するものです。子供の睡眠は、大人のそれと比較して文化や生活環境から大きな影響を受けやすいという特徴があります。これまでの子供の睡眠と文化・環境の研究については、文化差が比較的確な欧米諸国とアジア諸国との比較研究が主であり、アジア諸国間での比較研究は殆ど行われていませんでした。そこで私は上海交通大学小児医療センターの Wang 先生と共同研究を行い、文化的にも地理的にも比較的近いと考えられる日本と中国の未就学児の睡眠の問題の違いや、それらの問題が情緒・行動の問題にどのような影響を与えるかについて調べています。これまでの研究成果からは、アジアの国

特別賞を受賞して

ゲノム生化学講座 教授 藤井穂高

研究の継続にはアイデアと研究環境と研究費が必要である。この賞が弘前大学医学研究科における国際共同研究の発展と若手研究者の支援に貢献することを確信している。

この度、第二回櫻井医学研究賞特別賞を受賞させていただきましたことになりました。賞の原資を御寄付いただいた株式会社九大サクラキ薬局の櫻井清社長さまはじめ関係者の皆さま、選考委員の先生方はじめ弘前大学医学部の先生方に篤く御礼申し上げます。

本研究助成は、国際共同研究の実績及び計画について評価されるということ

令和元年十月二十八日に医学研究科大会議室において第二回櫻井記念医学研究賞授賞式が、櫻井清様、雅子様ご夫妻、佐藤敬学長ご列席のもと行われた。医学研究科長の挨拶の後、今回の受賞者に助成金が贈呈さ

大動物（ヒツジ・ブタ）を使用してそのモデルを作成し、3Dエコーや cardiac MRI を用いてその三次元的構造変化を解析する実験を行っていました。3Dエコーのトレーシングなどを中心に行い、MRI データと合わせ成果物としてまとめました。現地大学院生にそのトレーシングや心構造の講義・指導を行った縁もあり、現在も他の実験について相談を受けたりしています。こういった経験と当講座福田教授が積極的に推進してこられた大動脈弁の研究に活かすことはできないかと考え応募し、この度の受賞に至りました。大動物を使用する実験は施設・機材など莫大な予算を必要とするため（在籍していた研究室は一月のランニングコストが十萬ドルでした。）一から実験を立ち上げるのは大変難しいものですが、櫻井賞の理念でも国際共同研究として他研究室とコラボレーションすることで可能になるものも多くあると思われま

授賞式の際に櫻井様よりご祝辞を頂戴し、短命県返上に貢献したいという思いが強くあったという言葉が頂きました。直接的な貢献をどれほどできるかはわかりませんが、心筋症・弁膜症の三次元的病態生理を解明・理解することで、病気の予防につながる、あるいは病気を見つけた際には、より良い手術で治療する、これらを目指して研究を進めて参りたいと思っております。

中での未就学児の睡眠の問題の相や、睡眠問題と情緒および行動の問題との関係パターンが異なることが示されました。これらのことから、子供の睡眠の問題を考える上で、欧米とアジアという大きな文化的差異のみならず、文化的・社会的な差異が小さいアジアの地域間においても文化的差異を考慮する必要があるといえます。

これらの研究は子どものころの発達研究センターと神経精神医学講座が弘前市と協働して行なっている弘前市5歳児発達健診から得られたデータを利用して進めているものです。また、この他に弘前市の公立小中学校の児童生徒および保護者を対象に毎年、学校コホート調査も行っております。これからは、5歳児健診と学校コホート調査のデータの両方を利用して、幼児期から思春期にかけての発達や情緒的・行動的問題の発生メカニズムの解明と有効な予防・支援法の開発に関する研究を行う予定です。

私は今年の十月に保健学研究科で、新年度より医学部に新設される学科、心理支援科学科において公認心理師養成に携わることになりました。さらに一層研究および教育に励んで参りたいと思っております。



第2回COI学会において優秀賞を受賞して

フローラ健康科学講座 助手 杉村嘉邦

令和元年九月二十日に開催された、第二回COI学会において、「高齢期における足底接地面の状態は、運動機能や転倒経験と関連するか？」というテーマで発表し、優秀賞を受賞することができましたので、ご報告いたします。

超高齢社会を迎え、地域住民の健康づくりに注目が集まっています。健康づくりを始めるにあたって、「自身の健康状態を知る」ことがスタートになります。その中で、足部の状態を知ることも重要であり、足部の状態悪化は、運動機能の低下や転倒の危険性も高くなります。しかし、地域住民の健康づくり現場で話を聞くと、意外と足部の状態を観察している人は少ないことがわかりました。足部に関する研究は多いですが、大掛かりであり、機材コストが高いため、地域住民の体力測定に導入するのは無理があることも理由の一つと考えます。そこで、立位姿勢で身体が接地する唯一の部分である足裏（土踏まず）を、簡便な方法で測定し、

運動機能の低下や転倒経験を調査しました。

方法は、繰り返し活用できる「水で習字半紙」(呉竹)を使用し、フットプリント方式で



土踏まずの状態を観察し、デジタルカメラで撮影し評価しました。結果は、七十歳以降に土踏まずが小さくなっていました。また、介護予防二次予防対象者や要介護保険制度の要支援者などは、運動機能が低下するほど、土踏まずが小さくなっていました。その結果から、簡便な測定方法でも、運動機能とともに土踏まずの状態も悪化する可能性を示唆しました。簡便な方法での足部観察を可能にしたことで、より多くの人の運動機能を把握でき、自分の健康状態を知るきっかけになるのではないかと感じます。

今回は、多くの発表の中で、私が受賞できたことは、とてもうれしく思います。また、ポスター発表に

麻酔科学講座 助教 二階堂 義和

この度は第二回COI学会において優秀賞を賜り、大変光栄に存じます。学会にて投票頂いた方々ならびに日々の研究においてご協力を賜りました多くの先生方への場をお借りして御礼申し上げます。特に、臨床研究を主体的に進めて頂いている麻酔科の工藤隆司先生、神経科精神科の富田哲先生には厚く御礼申し上げます。

今回、賞を頂きました発表演題は「非定型うつ病の新規療法及び発症予防プログラム開発に向けたバイオマーカーの探究」です。非定型うつ病(非定型症状を伴う大うつ病性障害)の患者は抑うつ症状を示すほか、好きな事は元気になる気分反応性や過食、体重増加、過眠、手足の鈍麻痺、注意や否定に過敏に反応する拒絶過敏性を示します。非定型うつ病患者はその症状のために甘えや怠けだなど周囲から誤解されやすく、適切なサポートや治療の開始が難しくなっています。さらに、非定型うつ病患者の二十五〜二十八%が糖尿病や高血圧、肥満等の生活習慣病を併発するとの報告もあり、社会の理解を進めると共に早期発見や早期治療を目指した対策が必要

です。これまでに、我々は弘前

あたり、多くの先生方からの助言や、興味を持っていただいた関係者からのアドバイスに感謝お礼を申し上げます。今後も地域の健康づくり支援を進めながら、研究も継続して参ります。

この度は第二回COI学会において優秀賞を賜り、大変光栄に存じます。学会にて投票頂いた方々ならびに日々の研究においてご協力を賜りました多くの先生方への場をお借りして御礼申し上げます。特に、臨床研究を主体的に進めて頂いている麻酔科の工藤隆司先生、神経科精神科の富田哲先生には厚く御礼申し上げます。

今回、賞を頂きました発表演題は「非定型うつ病の新規療法及び発症予防プログラム開発に向けたバイオマーカーの探究」です。非定型うつ病(非定型症状を伴う大うつ病性障害)の患者は抑うつ症状を示すほか、好きな事は元気になる気分反応性や過食、体重増加、過眠、手足の鈍麻痺、注意や否定に過敏に反応する拒絶過敏性を示します。非定型うつ病患者はその症状のために甘えや怠けだなど周囲から誤解されやすく、適切なサポートや治療の開始が難しくなっています。さらに、非定型うつ病患者の二十五〜二十八%が糖尿病や高血圧、肥満等の生活習慣病を併発するとの報告もあり、社会の理解を進めると共に早期発見や早期治療を目指した対策が必要

です。これまでに、我々は弘前

令和元年度 教育に関して優れた業績を上げた教員を受賞して

ゲノム生化学講座 助教 清水 武史

この度は、教育に関して優れた業績を上げた教員として表彰いただき誠にありがとうございます。教育に携わる身としてこのような榮譽ある賞をいただいたことを大変光栄に思います。

現在担当している科目は生化学(講義2)、生化学実習、地域学ゼミナール(教養教育)などです。このうち、生化学講義は二〇一六年度より担当し、二〇一七年度から「細胞の分子生物学」を教科書として講座スタッフ三名で分担しています。講義のプレゼンテーションはスライド形式でハンドアウトは配布していません。今後、更に研究を重ね、非定型うつ病の早期発見・早期治療に向けた方策を開発出来るよう努めてまいります。

最後に本研究を進めるにあたりご指導を賜りました廣田和美教授をはじめ、ご支援頂いております皆様に厚く御礼申し上げます。どうぞ引き続きご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

私

せん。講義内容は核酸とタンパク質の構造・機能に始まり、細胞の構造・機能、シグナル伝達、がん、発生など多岐に渡ります。ご存知の通り、生化学は「生物を化学的に理解する学問」で、高校までの生物や化学から踏み込んだ内容となるため、これらの基礎を理解していかないと生化学も理解できません。履修生の中には高校で生物を選択しなかった学生も多く(実は私もそうですが)、そのような人たちにも解ってもらえるようスライドを組み立てたり言葉を選んだりと腐心しています。しかし、生化学は広汎で、講義では要点を絞っているものの限られた時間で十分に説明することは難しく、随時進め方の見直しと工夫を要します。

講義の担当にあたり、参考としたことの一つは自身の経験です。学生の頃どのような講義が分かりやすかったか記憶を辿ってみると、「明瞭な口調で」「学生の方を向き」「平易な言葉で説明する」先生の講義でした。このような講義は、内容が高度でも自然と興味を湧き理解を深めることができました。この経験を基に、興味深く分かりやすい講義となるよう努めています。当時の先生の域にはまだまだ及びません。特に、平易な言葉で説明することは大変難しいと痛感しています。

私

ため医師免許を持っておらず、教職課程は途中で放棄したため教員免許も持っていません。このような者が「教壇」に立ち、「医学科の学生」に「生化学」を教え

るなど場違いかもしれせん。それでも、学生による授業評価で「分かりやすかった」「楽しかった」という感想を貰えたことは大きな喜びです。彼ら学生の声と今回の受賞を励みに、より良い教育を目指して講義や実習の指導にあたる所存です。今後共、どうぞ宜しくお願い致します。



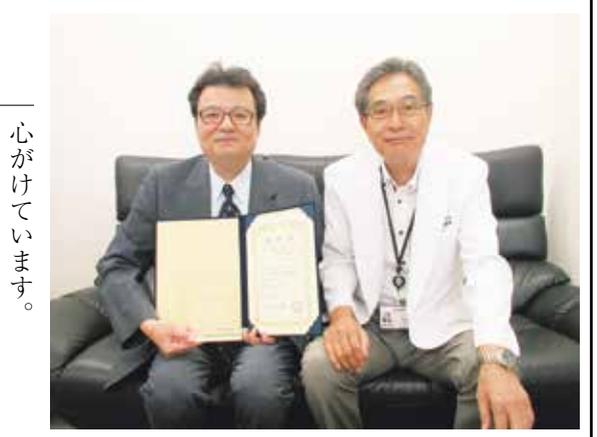
令和元年度 教育に関して優れた業績を上げた教員 表彰式

消化器内科、血液内科、膠原病内科 講師 山形 和史

この度は「令和元年度教育に関して優れた業績を上げた教員」として表彰いただきありがとうございます。私

は本学の卒業生ではあ (次ページへ続く)

(前ページより)
りませんが、大学時代に基礎医学、臨床医学の講義・実習ともに成績の悪い学生の目線に立った厳しくも温かい指導を教官から受けました。もし教官になったらこんな教育をしようと思える教官に多く出会い、その経験が今の自分の教育スタイルの原点になっていま



心にかけています。さらに、大学教育機関として、よりアカデミックな内容の教育、また、医学部は医師免許取得という大きな

目的をもつことから、より実地臨床に即した指導、この二つをバランスよく行うことを常日頃より念頭においております。このことにより、弘前大学として、質の高い教育の提供に少しでも貢献できておりましたら幸いです。今回のこの表彰を励みにさらなる教育の向上に邁進していく所存です。

最後に附属病院長として若輩である私を今回の表彰にご推薦いただき、また講座の上司として大学での学生教育の機会を与えてくださいます消化器血液内科学講座の福田眞作教授に深謝いたします。

た。より評価の高い医学雑誌に挑戦することで、時間がかかるという事情もありません。もう一つの理由は、修業年限短縮制度を用いて修了する学生が増えていることです。医学研究科では、優れた研究業績を上げた学生については、三年あるいは三年半で修了することができる修業年限短縮制度を設けています。従って、春季入学で半年早く修了する学生と秋季入学で一年早く修了する学生は、秋季に学位を授与されることとなります。今年度の医学研究科の秋季修了生は甲の五名でしたが、そのうち一名は修業年限短縮制度を利用して修了された方でした。今回の学位論文は何れも素晴らしい内容であり、学位授与者の今後の活躍を期待したいと思います。今年度の秋季学位記伝達式には二名が出席し、研究科長から学位記が授与されました。

弘前大学医学部および附属病院において系統解剖、病理解剖、ならびに法医学解剖のために御遺体を捧げられました三百二十七柱の御霊に対して甲意を捧げられたため、新元号となって初めての弘前大学医学部解剖体慰霊祭が十月一日午後一時三十分より弘前市文化センター一階大ホールで挙行されました。慰霊祭にはご遺族九十六名ならびに本学白菊会会員五十八名の方々に臨席賜り、また各方面から多くのご来賓をお迎えし、医学部および保健学科の教職員と学生が参列してしめやかに執り行われました。式に先立ち、弘前大学医学部管弦楽団による献体者慰霊のための演奏が行われ、会場全体が肅然とした空気に包まれました。まず初めに医学の教育と発展のために本学にご献体いただきました御霊に対して参列者全員による黙祷を捧げ、ご冥福をお祈りいたしました。そして、昨年から本年の慰霊祭までに御献体なされた方々のご芳名が奉読されました。続いて、若林孝一医学部長より祭詞が述べられました。引き続き、医学科二年生の忠平和子さんが学生代表として、ご献体いただきました諸霊に対する深い感謝とご遺族への厚い御礼の意が込められた弔辞を捧げました。その後、若林医学部長、福田眞作附属病院長、齋藤陽子保健学科長、医学科二年生



「弘前肉腫 腫瘍医学への貢献」記念石碑の設置

秋季学位記授与式

医学研究科長 若林孝一

初めて講義をする機会を得たときのことです。私の担当する血液内科学の上司より「学生や研修医に指導して理解が得られないとき、それは指導者である貴方自身がよくわかっていないまま説明していることがあるので気をつけなさい。」という言葉をいただきました。実際に講義をしてみると、たしかに自分が苦手な分野ではその傾向がありました。今もこの言葉を胸に、再度指導内容を立ち返り、確認することを

弘前大学秋季学位記授与式(学部および大学院)が、令和元年九月三十日に五十年記念会館岩木ホールで行われ、大学院医学研究科五名を含む四十七名に学位が授与されました。佐藤学長のお祝いの言葉の後、学部卒業生および大学院修了者に学位記が授与されました。

引き続き、大学院医学研究科秋季学位記伝達式が行



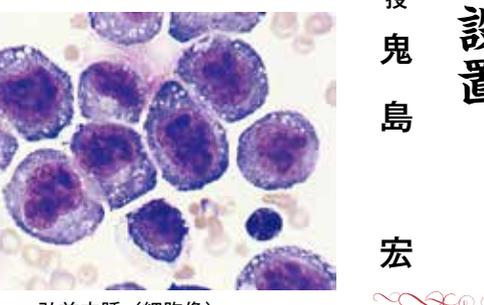
われしました。学部(医学部医学科)では学位記伝達式は三月のみですが、大学院では九月に学位を授与される方が毎年コンスタントに出ています。これには二つの理由があります。一つは、四年の修業年限内に修了できる学生が減少したこと、大学院が部局化された平成十九年度から、学位論文として提出される論文はすべて査読制のある雑誌に掲載されていることが義務づけられた結果、学位論文の採択を待っている四年生が増えまし



の奥寺真子さん、保健学科三年生の福井美音さん、林朋子白菊会理事長による代表献花が行われ、福田附属病院長よりご参列いただきました方々へ御礼の言葉が述べられました。最後に、参列者全員で献花を行いました。慰霊祭は滞りなく終了いたしました。

「弘前肉腫 腫瘍医学への貢献」記念石碑の設置
病理生命科学講座 教授 鬼島 宏

弘前肉腫 (細胞像)



白濁 勇 先生

弘前肉腫発見七十周年を迎えます。高さ一五〇センチ、幅四五センチ、奥行三〇センチの記念石碑は、この功績を称え、研究の志を継承するために設置されました。

以下に、記念石碑傍らの説明板の内容を転記させていただきます。(次ページへ続く)

(前ページより)
園を通られる折には、是非とも記念石碑を見ていただき、大学黎明期の功績の息吹を感じていただければ幸いです。

弘前肉腫は、弘前大学医学部病理学第二講座(現・病理生命科学講座)開設許可の翌年にあたる昭和二十六年(一九五一年)八月に、元医学部教授で第六代学長の白洲勇名誉教授により発見され、その後は癌化学療法(がんに対する薬剤療法)に関する研究に寄与し、腫瘍医学の進歩に役立てられている。弘前肉腫については、遠藤正彦第十二代学長は「学問の場で国際的に『ヒロサキ』の名を現した第一号であったろう」と述べている。その功績を称えるとともに、研究の原点とも言える志を継承するため、ここに記念碑を設置した。



令和元年度

弘前大学医学部スクーリング

入試専門委員長 上野 伸哉
(脳神経生理学講座 教授)

五月一日から令和となり、五月の十連休の影響で、今年の夏のスクーリングは例年の八月七日から八月九日の開催となりました。

スクーリングでは四コマの講義：(1)医学部長の若林孝一先生から「弘前大学医学部の歩みとこれから」、(2)附属病院長 福田眞作先生より「躍進を続ける弘前大学医学部附属病院」、(3)入試専門委員長 上野より「弘前大学AO入試選抜の

概要」を行った後、青森県健康福祉部より「医師修学資金貸与制度について」を紹介いただきました。令和二年度入試は入試募集人員枠の変更があります。AO入試においては従来の「県内枠」及び「地域枠」がそれぞれ「青森県内枠」及び「北海道・東北枠」と名称変更しました。同時に「青森県内枠」の出願資格および要件において、以下の二つの大きな変更を行います。(1)青森県弘前大学

医師修学資金の貸与を受けること。(2)卒業後直ちに「青森県のキャリア形成プログラム」にしたがって臨床研修を含む九年間(内四年間は医師の不足している地域)医療に従事すること。青森県弘前大学医師修学資金制度は青森県および県内市町村からの財源提供によるものです。この入試出願資格・要件変更に合わせて、青森県による弘前大学医師修学資金制度も変更予定です。現時点において大きな変更内容



1. 特別枠：一般枠：従来は、この修学資金の対象者になります。

2. 学士枠：原則として青森県出身者が、AO入試「青森県内枠」入学者のみ。

「青森県内枠」合格者は入学後に特別枠(五名)又は一般枠(二十二名)を選ぶこととなり、学士枠(三名)は、学士入試の合格者のうち青森県出身者から希望者を募る予定です。

詳細は青森県庁の以下のサイト <https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kenko/ryo/isshiyugakushikin.html>

十月二十五日(十月二十七日)に行われた弘前大学総合文化祭において、今年も医学部は医学展を開催致しました。医学展が無事に閉幕致しました事を報告させていただきます。

今年の医学展のコンセプトは「医 involve」というものでした。英単語の「involve」には「巻き込む」という意味があり、「involve」と「医学展」を掛け合わせた「医 involve」には、より多くの方々に「巻き込んで」医学展に参加して頂きたいという願いを込めました。

医学部からは外科・救急・健診・精神・産科・臓器の全六ブースを設け、来場者との触れ合いを重視した体験型の企画を数多く用意しました。

今年度の医学展の結果は、声かけの甲斐もあり、来場者アンケートの結果によると、今年の医学展来場者の約三割が「当日の呼び込み」及び「通りすがりが足を止めた」と昨年と比較して約七%増加、また中学生の参加者の割合が約二倍増となりました。

三日間の医学展においては、多くの外国人来場者の姿も見受けられ、普段の講義とは違い、幅広い層の方々と触れ合う事ができました。

最終日には、救急災害医学講座の伊藤勝博先生より「あなたの前で家族があたったら(脳卒中になったら)」と題し、ご講演頂きました。



中学生と医師との交流プログラム

医学研究科長 若林 孝一

弘前市および西目屋村在住で弘前市内の中学校に在籍し、将来医療職を目指す中学生を対象とした「医師との交流プログラム」が令和元年八月九日に弘前大学医学部で開催され、市内の十の中学校から二十一名が参加した。この事業は弘前市教育委員会の主催で平成二十六年から開催され、今年で六年目となる。当日の午前中は医学部長と吉田健弘前市教育長の挨拶の後、参加者は医学科の五名の学生との意見交換や血圧測定などの実習体験を行った。午後は附属病院屋上のヘリポートを見学した後、附属病院皮膚科の原憲司医師と神経科精神科の神崇太医師と交流を行った。中学生からは様々な質問があり、両先生は自らの体験



をもとに、医師としてのやりがいや喜びを語った。参加した中学生からは実習体験やヘリポート見学ができたこと、そして何よりも現役の医学生や医師から直接話が聞けたことが有意義であったと感想が述べられた。参加者の中から将来、医学、医療を担う人材が輩出することを期待したい。

弘前大学ノー・ア・ウェル・ビー

医学科四年 代表 小林 祐紀

身近な題材を選んで頂いた事もあり、熱心にメモを取る来場者の姿や質疑応答が活発であり例年より多くの聴講者を巻き込む事ができました。

以上のように、多くの診療科や研究室、企業、四年・約百五十名の医学生、来場者の皆様、鵬桜会の皆様、事務の方々等、数多くの方々に巻き込み多大なるご協力を頂いた結果、医学展を開催する事ができました。このような素晴らしい医学展を実現できたのは、医学展代表として大変光栄で、皆様にこの場をお借りして心から御礼申し上げます。

以上のように、多くの診療科や研究室、企業、四年・約百五十名の医学生、来場者の皆様、鵬桜会の皆様、事務の方々等、数多くの方々に巻き込み多大なるご協力を頂いた結果、医学展を開催する事ができました。このような素晴らしい医学展を実現できたのは、医学展代表として大変光栄で、皆様にこの場をお借りして心から御礼申し上げます。

「メンタルヘルス」の開催報告

社会医学講座 教授 井原一成

令和になり最初の弘前大学大学院医学研究科公開講座が九月六日に弘前大学医学部コミュニケーションセンターで開催されました。テーマは「メンタルヘルス」で、住民の高い関心を反映して百人近くの受講者が会場を埋めました。はじめに広報委員長である高橋識志教授から本会の趣旨を含めた挨拶をいただき、その後三人の演者による講演がスタートしました。



メンタルヘルス関連のテーマは、これまでの公開講座で何度も取りあげられています。今回は、講演1が社会医学講座の井原による「高齢期のうつ病」、講演2は美と健康医学講座の鄭松伊（ジョンソン）助教による「身体活動とメンタルヘルス」、講演3が子どものこころの発達センターの栗林理人特任准教授による「子どものメンタルヘルス—子どもと養育環境—」でした。講演1での地域高齢者に特徴的なうつ病の紹介と早期発見の重要性の説明から、講演2の軽症のうつ状態の予防に歩行の効果を検証した研究の紹介に続き、講演3では子どもの精神疾患の発症と治療において両親や祖母を含む養育環

境に目をむけることの重要性が不登校の子どもの治療を例に説明されました。メンタルヘルスと一口にいつても、精神疾患の予防や治療に関わる狭義のメンタルヘルスから、病気に限らない精神健康に関わる広義のメンタルヘルスまで、その意味するところは多様です。今回の講演は広義から狭義のメンタルヘルスまで、また対象も高齢者から子どもとその親世代までを広くカバーしていました。講演者は、それぞれ、一般市民向けという講座の性質上、ゆっくり話したり、専門用語をできるだけ使わないようにしたり、親しみやすい絵や写真を用いたりして分かりやすく伝える工夫をしました。受講者には、メンタルヘルスの多様な側面を、自身のこと、あるいは子どもや両親のことと関係づけながら理解し

さる、十月十九日(土)十四時から、五戸町立公民館で医学研究科健康・医療講演会が開催されました(医学研究科主催、国民健康保険五戸総合病院共催)。テーマは「あなたの元気、応援するために教えたいこと」でした。演者は、五戸総合病院院長の安藤敏典先生と私、そして司会進行は法医学講座の高橋識志先生がつとめられました。全部で約五十名の参加者があり、講演後の質疑応答も活発で、年に一回の学外での本講演会の意義を改めて感じました。安藤先生の講演テーマは、「日常生活に支障をきたす外科疾患(痔・下肢静脈瘤・脱腸など)」でした。

医学研究科健康・医療講演会の報告

社会医学講座 特任教授 中路重之

先生は外科医で、日常の大きな悩みのもととなっている痔・下肢静脈瘤・脱腸を、専門家の立場からわかりやすくお話いただきました。なんととっても実際の患者さんのリアルな写真がその都度示されとても分か



りやすかったです。私自身、この分野の講演を聞くことはまれで、聞いてよかったと思います。その意味では、古くとも「痔」の内容であったと思われ、その証拠に、聴衆の皆さんは全員食い入るように聞き入っていました。私のタイトルは、「生活習慣病をきたす嗜好品(タバコやお酒)の影響」でした。青森県の短命県返上活動の本質と現状そして問題点を紹介させていただきました。短命県返上の視点から、そのための健康づくりのあり方につき、飲酒と喫煙を中心に話をさせていただきました。学外に出て、このような講演会を開催するたびに感

ず、十月七日第五十七回日本脳神経外科学会東北支部会を弘前で主催したこと併せ、九月八日に市民公開講座を弘前大学医学部コミュニケーションセンターで開催しました。総合タイトルを「身近な脳疾患の治療」として二部に分け行いました。

第一部「学ぼう、脳卒中！」(担当…奈良岡征都講師)では、脳卒中の概要・予防など広範囲にわたり解説しました。具体的には、脳卒中は、最も頻度が多い「脳梗塞」、脳表の動脈にできる瘤が破れて出血する「くも膜下出血」、そして脳の細い動脈が破れる「脳内出血」の三つに大別さ

れ、さらに「脳梗塞」は「アテローム血栓性脳梗塞」、「心原性脳塞栓症」、「ラクナ梗塞」に細分されることを説明しました。「心原性脳塞栓症」に対する急性期血栓回収療法や、「くも膜下出血」におけるクリッピング術・コイル塞栓術、「脳出血」に対する内視鏡下血腫除去術などの最新の治療にも触れるとともに、何よりも「脳卒中」を発症しないために、予防としての「高血圧治療」や「減塩」「運動・肥満解消」などの生活習慣改善の重要性を強調しました。

第二部は「その頭痛、こ

うやって治します！」(担当…片山耕輔助教)と題し、頭痛をテーマに講演を行いました。日本人の十人に四人は何らかの頭痛を有していると言われており、一般診療で遭遇する頻度の高い主要な症候の一つと言えます。頭痛には、頭痛そのものが疾患である一次性頭痛と、何らかの頭蓋内疾患により生じる二次性頭痛があります。頭痛のうち九割が一次性頭痛と言われていますが、残り一割程度の二次性頭痛にはくも膜下出血、脳腫瘍や髄膜炎などの生命にかかわる疾患による頭痛が含まれており、頭痛診療では必ず二次性頭痛を除外する必要があります。一次性頭痛では頻度の高い、片頭痛、緊張型頭痛、薬剤乱用型頭痛を、二次性

頭痛では、外科治療が有効な脳腫瘍、脳脊髄液減少症、三叉神経痛を取り上げ、それらの病態、治療について説明しました。

脳の疾患は、身近なもの、あるいは頻度の高いものが少なくないにも関わらず、一般市民からの認知度は高くはありません。そんな中で今回百名近くの参加者が得られました。今回の講演で、脳卒中予防の理解による脳卒中発生率の低下や、極めて保有率の高い頭痛の理解に基づくQOLの向上など、微力ながら一般市民の健康向上の一助になりましたならば幸いです。今後も脳疾患の啓発活動を継続していきたいと考えています。

頭痛をテーマに講演を行いました。日本人の十人に四人は何らかの頭痛を有していると言われており、一般診療で遭遇する頻度の高い主要な症候の一つと言えます。頭痛には、頭痛そのものが疾患である一次性頭痛と、何らかの頭蓋内疾患により生じる二次性頭痛があります。頭痛のうち九割が一次性頭痛と言われていますが、残り一割程度の二次性頭痛にはくも膜下出血、脳腫瘍や髄膜炎などの生命にかかわる疾患による頭痛が含まれており、頭痛診療では必ず二次性頭痛を除外する必要があります。一次性頭痛では頻度の高い、片頭痛、緊張型頭痛、薬剤乱用型頭痛を、二次性

頭痛をテーマに講演を行いました。日本人の十人に四人は何らかの頭痛を有していると言われており、一般診療で遭遇する頻度の高い主要な症候の一つと言えます。頭痛には、頭痛そのものが疾患である一次性頭痛と、何らかの頭蓋内疾患により生じる二次性頭痛があります。頭痛のうち九割が一次性頭痛と言われていますが、残り一割程度の二次性頭痛にはくも膜下出血、脳腫瘍や髄膜炎などの生命にかかわる疾患による頭痛が含まれており、頭痛診療では必ず二次性頭痛を除外する必要があります。一次性頭痛では頻度の高い、片頭痛、緊張型頭痛、薬剤乱用型頭痛を、二次性

数ほどはインドネシア・イ (次ページへ続く)

市民公開講座 「身近な脳疾患」の治療を

脳神経外科学講座 教授 大熊洋揮



去る九月七日第五十七回日本脳神経外科学会東北支部会を弘前で主催したこと併せ、九月八日に市民公開講座を弘前大学医学部コミュニケーションセンターで開催しました。総合タイトルを「身近な脳疾患の治療」として二部に分け行いました。

第一部「学ぼう、脳卒中！」(担当…奈良岡征都講師)では、脳卒中の概要・予防など広範囲にわたり解説しました。具体的には、脳卒中は、最も頻度が多い「脳梗塞」、脳表の動脈にできる瘤が破れて出血する「くも膜下出血」、そして脳の細い動脈が破れる「脳内出血」の三つに大別さ

れ、さらに「脳梗塞」は「アテローム血栓性脳梗塞」、「心原性脳塞栓症」、「ラクナ梗塞」に細分されることを説明しました。「心原性脳塞栓症」に対する急性期血栓回収療法や、「くも膜下出血」におけるクリッピング術・コイル塞栓術、「脳出血」に対する内視鏡下血腫除去術などの最新の治療にも触れるとともに、何よりも「脳卒中」を発症しないために、予防としての「高血圧治療」や「減塩」「運動・肥満解消」などの生活習慣改善の重要性を強調しました。

第二部は「その頭痛、こ



頭痛をテーマに講演を行いました。日本人の十人に四人は何らかの頭痛を有していると言われており、一般診療で遭遇する頻度の高い主要な症候の一つと言えます。頭痛には、頭痛そのものが疾患である一次性頭痛と、何らかの頭蓋内疾患により生じる二次性頭痛があります。頭痛のうち九割が一次性頭痛と言われていますが、残り一割程度の二次性頭痛にはくも膜下出血、脳腫瘍や髄膜炎などの生命にかかわる疾患による頭痛が含まれており、頭痛診療では必ず二次性頭痛を除外する必要があります。一次性頭痛では頻度の高い、片頭痛、緊張型頭痛、薬剤乱用型頭痛を、二次性

数ほどはインドネシア・イ (次ページへ続く)

癌研究の国際カンファレンスを開催して

病理生命科学講座 教授 鬼島宏

令和元年十月十六日(土)七日に東京・ホテルサンルートプラザ新宿にてInternational Conference on Biomedical and Cancer Researchを開催しました。今回のカンファレンスは演

題数百余りの小規模な研究会でしたが、熱のこもった口演・ポスターの演題発表が続き、活発な質疑応答が行われました。参加者の半数ほどはインドネシア・イ (次ページへ続く)

(前ページより)
断を行っていた私にとっ
て、その多様性・奥深さに
驚かされると同時に、その
美しい像に魅了されていま
す。

生活面では、同じアパ
ト群に住んでいる日本人研
究者の家族と助け合いなが
ら、パーベキューをした
り、ホームパーティーをし
たりと楽しんでいきます。子
供達はたくましいもので、
親の心配をよそに、現地の
小学校・幼稚園に楽しそう
に通っています。一年もた
つと、アメリカ人の友達の
言っていることがわかるら

若手教員・医師だより

神経精神医学講座

助教 柞木田 礼子

しく、子供の適応能力の高
さに感心しております。
この文章を書いている時
点で、残りのアメリカ生活
も五か月となってしまいま
した。残り短い留学生活を
より実りの多いものにでき
るように努力していこうと
思っております。最後に、
人手不足のなか、海外留学
を認めてくださった、鬼島
教授、病理生命科学講座の
先生方、そして、サポート
していただいている病理関
係の先生方、関係者の皆様
に感謝するとともに、帰国
後は少しでも、恩返しので
きればと考えております。

初めまして。私は弘前大
学医学部平成十五年卒の
柞木田礼子と申します。今
年の四月より、当大学神経
精神医学講座に所属させて
いただき、精神科医一年目
として勉強中です。それま
では産婦人科医として勤務
してまいりました。もともと幼
い頃に見たドラマの影響で
産婦人科医だけにはなるま
いと思っていた私ですが、
が、外病院の実習で、将来
行かない科を勉強しようと
産婦人科を選択しました。
実習先の先生は、精神科か
皮膚科に行きたいと答えた
私を、実習の最後に「一緒
に産婦人科を盛り上げてい
こう」とお誘い下さいまし
た。その先生のおかげで今
の私があると思っていま
す。当時、産婦人科医は絶
滅危惧種と言われており、
私でも何か役立つことがあ
ればと考え産婦人科を選択

しました。医師を目指した
頃から精神科を考えていた
私は、学生時代、精神科医
には必要ないと思ひ(もち
ろんそんなことはありませ
ん)、解剖や画像診断の勉
強を全くしていなかったた
め、とても後悔しました。
学生の皆さんには、どの勉
強も役立つ日は来るので、
真面目に勉強をすることを
強くお勧め致します。産婦
人科に所属してからは、本
当にたくさんのお話を学ば
せていただきました。一人
では何もできないチーム医
療が大切な科なので、産婦
人科の先生方
はもちろん他
科の先生方に
も様々な面で
支えていただ
きました。手
術のセンスが
ない私でした
が、本当に根



気強く教えて下さいまし
た。子供を育てるように面
倒をみていただき、感謝し
てもしきれません。たくさ
んの患者さんにも出会い、
楽しいことも悲しいことも
たくさんあり、とても充実
した生活を送り、産婦人科
医になったことを後悔した
ことはありませんでした。
自分なりに少しずつでも成
長できればと思います、立ち
止まらずに進んでまいりま
す。ある患者さんが亡くな
ったことをきっかけに、
今後のことを考えるようにな
りました。この先後輩た
ちのために私は役立てるの
か、私は患者さんの力にな
れているのか、私に合っ
ているのは何か、私がした
ことは何か。その時、先
に精神科医の道を歩いてい
た妹の後を付いて行こうと
思い立ちました。ここまで
育てていただいた産婦人科
の先生方には大変申し訳な
く、心苦しさもありました
が、今後の自分の人生を考
え、十四年間勤めた産婦人
科を離れました。送り出し
てくださった産婦人科の先
生方、このような私を受け
入れて下さった精神科の先
生方には大変感謝しており
ます。精神科医として勤務
し、目から鱗が落ちまくる
毎日です。産婦人科では「い
つでもどうぞ」と二十四時
間診療体制でしたが、精神
科では決まった時間、決
まった場所でのみ診察をす
る枠組みを作り、適切な距

離を取ることが、患者さん
の治療の上でも大事だと
学びました。私は患者さん
との心の距離が近過ぎ
て、思い入れが強くなって
しまったり、無力な自分が
悔しくて、患者さんや家族
の前で涙を流してしまっ
たこともありました。
医師として感情のコント
ロールができていなかった
と思います。また患者
さんの症状でも、「あの
症状は抑うつによるもの
だったのか」とか「あの方

まず自己紹介をしま
す。弘前大学を卒業、青森
県立中央病院で研修後に、
県外で乳癌外科を中心に研
修を行っていました。井川明
子です。青森県に戻って
くるにあたって、二〇一五年
に消化器外科科学講座に入
局しました。現在は、高度救
命救急センターに籍を置い
ています。当直ではできな
い動きや手技も多く、様々
な先生方にお世話になって
います。専門には、乳腺甲
状腺外科の外来を中心に業
務を行っています。
さて、学生時代以来の弘
前での生活は五年目となり
ました。この間、色々な意
味で最もウエイトを占めて
いたのが大学院研究になり
ます。まず臨床を行いな
がら、研究テーマを探すこ
ろからスタートしました。
ご存知の通り、乳腺診療は
診断から手術、術後治療、
再発治療まで多岐に渡りま
す。その中で私の興味は、
画像と病理という「診断」

は発達障害だったのだろ
う」と今更気付いたことも
多々あります。わずか半年
で学んだ知識でも、産婦人
科医時代に知っていたら、
もっと患者さんのために
きたことがあったと思う
毎日です。今後の医師人生
があと何年あるか分かりま
せんが、これからは時々立
ち止まり自分や周囲を見つ
め直しながら進んでいきま
す。どの道を歩いても、学
んだことは無駄にならない
と思っています。

は発達障害だったのだろ
う」と今更気付いたことも
多々あります。わずか半年
で学んだ知識でも、産婦人
科医時代に知っていたら、
もっと患者さんのために
きたことがあったと思う
毎日です。今後の医師人生
があと何年あるか分かりま
せんが、これからは時々立
ち止まり自分や周囲を見つ
め直しながら進んでいきま
す。どの道を歩いても、学
んだことは無駄にならない
と思っています。



助手 井川 明子

に関するものでした。そこ
で、浸潤性小葉癌について
のいくつかのクリニカルク
エスチョンのストックを元
手に、漠然と分子病態病理
学講座にお世話になること
になりました。しばらく研
究テーマを絞り切れませ
んでしたが、多くはない臨
床知識をフル稼働させて手
標本を見続け、「脈管周囲
浸潤」という所見に注目す
るに至りました。漠然とス
タートした分、気付けたの
ではないかと思っています。
(次ページへ続く)

に関するものでした。そこ
で、浸潤性小葉癌について
のいくつかのクリニカルク
エスチョンのストックを元
手に、漠然と分子病態病理
学講座にお世話になること
になりました。しばらく研
究テーマを絞り切れませ
んでしたが、多くはない臨
床知識をフル稼働させて手
標本を見続け、「脈管周囲
浸潤」という所見に注目す
るに至りました。漠然とス
タートした分、気付けたの
ではないかと思っています。
(次ページへ続く)

グタリ温泉又兵衛の茶屋(第
八十九湯:青森市駒込字深沢:
前回は引き続き、十和田・八
甲田界隈です。八甲田一帯の九
つの温泉宿による「八甲田山九
湯会」があり、八甲田山系周
辺の温泉宿泊施設や観光地を温泉
郷として一体的に情報発信する
のが目的で、今年から充実した
ホームページが公開されていま
す。温泉宿が泉質や日帰り入浴
情報を公開しているのは意外と
少ないので、訪れる方はぜひ活
用してください。

みちのく深沢温泉(第八十八
湯:青森市駒込字深沢:日帰り
十七時迄)は、昭和五十五年開
業とのこと、昭和の懐かしい空
間が広がる静かな温泉宿で
す。ナトリウム・カルシウム一
硫酸塩泉は、やさしめの芒硝泉
でしっかりと温まり、開放感あ
る露天風呂もあります。八甲田
山雪中行軍で有名な田代街道
(県道四十号線) 近くにあつて
通年営業しており、「冬も来い
へ!」という看板と共に宿主の
意気込みが感じられます。

日帰り十七時迄:冬期休業は、
県道四十号線沿いで田代平にあ
る「茶屋」の一角にある温泉民
宿です。グタリ沼に近いことか
らグタリ温泉と呼ばれますが、
HP検索等では専ら又兵衛の茶
屋のようです。総ヒバの浴室は
平成二十二年にリニューアルさ
れたとのこと、木の温もりの
中で浸るかけ流しのナトリウム
一硫酸塩・炭酸水素塩泉は、
車を停めてひと風呂の価値
があります。
酸ヶ湯温泉(第九十湯:
青森市荒川字南荒川:日帰
り十七時迄)は、貞享元年
(一六八四)に発見された
全国的にも有名な温泉で
す。正に独特の酸性・含鉄
・含硫黄・アルミニウム一
硫酸塩・塩化物泉が、酸ヶ
湯という名の由来です。昭
和二十九年(一九五四)に
四万、日光湯元と共に国民
保養温泉地第一号に指定さ
れ、八甲田山九湯会の幹事
も務めています。東北大学
植物園八甲田分園が隣接し
ているのは、大正時代に研
究のために高山植物を寄贈
したことに由来します。
城ヶ倉温泉(第九十一
湯:青森市荒川字南荒川:
日帰り十六時迄)は、さつ
ぱりしたカルシウム・ナト
リウム塩化物泉です。ガラ
ス張りの内湯からも十分に
自然を眺望できますが、源
泉かけ流しの露天風呂は眼
前にブナ林が広がり自然に
溶け込む感じがします。

日帰り十七時迄:冬期休業は、
県道四十号線沿いで田代平にあ
る「茶屋」の一角にある温泉民
宿です。グタリ沼に近いことか
らグタリ温泉と呼ばれますが、
HP検索等では専ら又兵衛の茶
屋のようです。総ヒバの浴室は
平成二十二年にリニューアルさ
れたとのこと、木の温もりの
中で浸るかけ流しのナトリウム
一硫酸塩・炭酸水素塩泉は、
車を停めてひと風呂の価値
があります。
酸ヶ湯温泉(第九十湯:
青森市荒川字南荒川:日帰
り十七時迄)は、貞享元年
(一六八四)に発見された
全国的にも有名な温泉で
す。正に独特の酸性・含鉄
・含硫黄・アルミニウム一
硫酸塩・塩化物泉が、酸ヶ
湯という名の由来です。昭
和二十九年(一九五四)に
四万、日光湯元と共に国民
保養温泉地第一号に指定さ
れ、八甲田山九湯会の幹事
も務めています。東北大学
植物園八甲田分園が隣接し
ているのは、大正時代に研
究のために高山植物を寄贈
したことに由来します。
城ヶ倉温泉(第九十一
湯:青森市荒川字南荒川:
日帰り十六時迄)は、さつ
ぱりしたカルシウム・ナト
リウム塩化物泉です。ガラ
ス張りの内湯からも十分に
自然を眺望できますが、源
泉かけ流しの露天風呂は眼
前にブナ林が広がり自然に
溶け込む感じがします。

八甲田山九湯会
温泉 泉質 営業 日帰り入浴

温泉 泉質 営業 日帰り入浴

猿倉温泉、葛温泉、谷地温泉が十和田市、その他の6湯が青森市

青森

あすまし

温泉紀行

23

鬼島 宏
(病理生命科学講座・教授)

みちのく深沢温泉
グタリ温泉
又兵衛の茶屋
酸ヶ湯温泉
城ヶ倉温泉

前回は引き続き、十和田・八甲田界隈です。八甲田一帯の九つの温泉宿による「八甲田山九湯会」があり、八甲田山系周辺の温泉宿泊施設や観光地を温泉郷として一体的に情報発信するのが目的で、今年から充実したホームページが公開されています。温泉宿が泉質や日帰り入浴情報を公開しているのは意外と少ないので、訪れる方はぜひ活用してください。

みちのく深沢温泉(第八十八湯:青森市駒込字深沢:日帰り十七時迄)は、昭和五十五年開業とのこと、昭和の懐かしい空間が広がる静かな温泉宿です。ナトリウム・カルシウム一硫酸塩泉は、やさしめの芒硝泉でしっかりと温まり、開放感ある露天風呂もあります。八甲田山雪中行軍で有名な田代街道(県道四十号線) 近くにあつて通年営業しており、「冬も来いへ!」という看板と共に宿主の意気込みが感じられます。

日帰り十七時迄:冬期休業は、県道四十号線沿いで田代平にある「茶屋」の一角にある温泉民宿です。グタリ沼に近いことからグタリ温泉と呼ばれますが、HP検索等では専ら又兵衛の茶屋のようです。総ヒバの浴室は平成二十二年にリニューアルされたとのこと、木の温もりの中で浸るかけ流しのナトリウム一硫酸塩・炭酸水素塩泉は、車を停めてひと風呂の価値があります。

酸ヶ湯温泉(第九十湯:青森市荒川字南荒川:日帰り十七時迄)は、貞享元年(一六八四)に発見された全国的にも有名な温泉です。正に独特の酸性・含鉄・含硫黄・アルミニウム一硫酸塩・塩化物泉が、酸ヶ湯という名の由来です。昭和二十九年(一九五四)に四万、日光湯元と共に国民保養温泉地第一号に指定され、八甲田山九湯会の幹事も務めています。東北大学植物園八甲田分園が隣接しているのは、大正時代に研究のために高山植物を寄贈したことに由来します。

城ヶ倉温泉(第九十一湯:青森市荒川字南荒川:日帰り十六時迄)は、さつぱりしたカルシウム・ナトリウム塩化物泉です。ガラス張りの内湯からも十分に自然を眺望できますが、源泉かけ流しの露天風呂は眼前にブナ林が広がり自然に溶け込む感じがします。

冬場の八甲田は荒天も少なくありません。道路も冬期閉鎖に加えて、夜間通行止めもありますので、道路情報を収集しながら運転に十分に注意しつつ、八甲田山九湯会の個性あふれる温泉を堪能してください。

(前ページより)
 多いと言われる乳癌ですが、小葉癌はその約四割を占めるに過ぎません。そのため、関連施設を含め過去十年の多くの症例を提供いただきました。これほど多くの小葉癌症例をまとめてみる経験はこれまでなく、

学生だより

解剖学実習を終えて

解剖学実習を終えて

医学科二年 芦野 倭子

厳しい三か月だった。これが、解剖学実習を終えて抱いた正直な感想です。このように感じるのは、人の身体が非常に緻密な構造をとっており、筋や臓器の配置、血管や神経の走行等の構造を細かく覚えるのが大変だったからだと思えます。そして何より、実際にご遺体を目の前にして、毎日緊張を覚えたからだと思います。私にとって本当に大変な実習でしたが、心身ともに成長する素晴らしい実習であったと確信しています。

人体の正常な構造を理解するというのが目的のもっとも重要な実習ですが、これは単に医師に必要な意識を身につけるためのものではなく、例えば、印象深いのは膝の靭帯を観察したことです。率直に、「え、こんなに太いの？引つ張ったり、強く力をかけても全然外れないじゃないか」と感じました。ス

解剖学実習を終えて

医学科二年 忠平 和子

解剖学実習を終えて、ご遺体である「先生」は私たちが学ぼうとすればするだけ与えてくださると下田教授をはじめにおっしゃったことをあらためて噛みしめています。

慰霊祭で読ませて頂いた弔辞の中で、医師の手は医療行為のためだけではなく、その傷や痛み、心、そして人生を包む手であるべきであり、私はそうありたいと私たちの「先生」の御霊、ご遺族の御前に誓いました。実は、解剖学実習において一つ大きな反省があったことを私はこの慰霊祭では心のうちにしまっていました。それは、解剖学実習の最終日のことでした。全ての実習過程を終え、私には気がなっていないから手を付けていないお体のある一つの関節がありま

らに付き添われていたであろうご家族、先生の小さい頃の面影。この関節は私が知るべき、先生の人生を物語るものでした。班員の助けがなかったら、私は先生の人生の多くを知らずに終えるところでした。チーム医療の利点を知らずとも知り、「先生」からの声なきメッセージを受け取れなかったことを深く反省しました。学ぼうとする気持ちの欠如です。どこまで学びを求めるとは私たちの胸三寸、人生を包む手であらんとことを誓うならば、もっと

解剖学実習のガイダンスにて、先生はこう仰っていました。「解剖学実習を終えた学生には医者以外の道は残されていない。社会がそれを許さない。」その言葉を大げさに感じていた私は、後にそれが医師という職業の責任感の重さを理解し、それに見合った相応しい人格を養ってほしいという鼓舞のメッセージであったことに気が付きます。

解剖学実習初日、ご遺体のお顔を始めて見た際に、今自分の目の前にいらっしゃる方も、かつては自分のような若者であり、家族があり、友人があり、人生があったのだとまざまざと実感させられました。そしてその方々へご自身の大切なお身体を、医学の発展のために、何の縁も無い若

解剖学実習を終えて

医学科二年 松丸 麗奈

感覚を研ぎ澄ませ、求めよと、納棺の儀では反省の涙に暮れ、「先生」の抱えていらつしやうした痛みも光も影も、両手で抱かせて頂いているつもりでお別れをしました。

解剖学実習では本当に多くの学びを頂きました。未熟な私たちに機会を与え、見守ってくださった下田教授をはじめとする解剖学教室の先生方、スタッフの方々、弘前大学の諸先生方、ありがとうございました。そして、ご理解を賜りましたご遺族の皆様、何よりご献体くださった「先生方」に心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

まず初めに献体して下さった方々、またそのご家族の方々に感謝を申し上げます。

実習を終えて、私は目指す医師像について考えさせられました。その大きなきっかけとなったのはご遺体から発せられる「生」の実感です。ふと見上げた時に見える、穏やかに眠っているような顔や、ずつしりと組織が詰まった臓器を持ち上げたとき、「ああ、彼は間違いなく生活をしていて、今は冷たく眠っている組織も、生きるために必死に働いていた時があったのだ。」と改めて感ぜられ、以前生きていた体にメスを入れるたび、目を背けたくなるほどにずしりと胸が重くなりました。そしてそのたびに「逃げてはならない、この感情と向き合い続けなければならぬ」と自分に言い聞かせました。

者にと託して下さいました。自身にとっても、ご家族にとっても、ご友人にとっても大切なお身体をご献体されることは大変なご決断であったと思います。解剖学実習にはご遺体をなされた方々のみならずご家族、そして友人を含めた大勢の方々の思いが詰まっています。それは決して軽々しいものではなく、尊く崇高な思いです。そしてそれは臨床の場においても同じです。医師が背負うものは患者さんの思いだけでなく、患者さんのご家族、ご友人など多くの関係者の方々の思いです。私はそのことを胸に解剖学実習にてご遺体と向き合わせて頂きました。

解剖学実習を通して、私は死の意味や医師としての責任感といった哲学を学んだ。

私が解剖させて頂いたご遺体の胃には大きな病変がありました。満腹に物を食べられず、日々激しい腹痛を起こして大変苦しかったであろうと思います。この病変を見たとき、「この方は病気になるまでの人生をできるだけ限りの範囲でも生きていこうと生きたらどうか」と思いました。

人は誰しも生活や大切な思いを持っていて、病気は、時として治療の副作用も、それを制限することがあります。私は病気がかりに気をとられず、患者さんの思いを大切にしている医師になりたいです。しかし、きつと現実が甘くないでしょう。病気が早く見つかったも患者さんの思いや事情で治療できずに悪化して亡くなることもあれば、故意ではないにしろ、選んだ治療方針が最適でなく、理想とは裏腹に思いを踏みこたしてしまうこともあるだろうと思います。病気だけを診ていたらどれだけ楽だろうかと思いません。しかし、逃げてはならない。人の思いを尊ぶからこそ葛藤を抱き、理想を追いかけられるからです。

ご遺体の方は人生で私が悩むたび原点に立ち返らせてくれる、いわば人生の先生の人です。実習で学んだ思いや考えを胸に、これからも勉強を頑張っていこうと思えます。

解剖学実習を終えて

医学科二年 久保田 崇頌

解剖学実習のガイダンスにて、先生はこう仰っていました。「解剖学実習を終えた学生には医者以外の道は残されていない。社会がそれを許さない。」その言葉を大げさに感じていた私は、後にそれが医師という職業の責任感の重さを理解し、それに見合った相応しい人格を養ってほしいという鼓舞のメッセージであったことに気が付きます。

解剖学実習初日、ご遺体のお顔を始めて見た際に、今自分の目の前にいらっしゃる方も、かつては自分のような若者であり、家族があり、友人があり、人生があったのだとまざまざと実感させられました。そしてその方々へご自身の大切なお身体を、医学の発展のために、何の縁も無い若

者にと託して下さいました。自身にとっても、ご家族にとっても、ご友人にとっても大切なお身体をご献体されることは大変なご決断であったと思います。解剖学実習にはご遺体をなされた方々のみならずご家族、そして友人を含めた大勢の方々の思いが詰まっています。それは決して軽々しいものではなく、尊く崇高な思いです。そしてそれは臨床の場においても同じです。医師が背負うものは患者さんの思いだけでなく、患者さんのご家族、ご友人など多くの関係者の方々の思いです。私はそのことを胸に解剖学実習にてご遺体と向き合わせて頂きました。

解剖学実習を通して、私は死の意味や医師としての責任感といった哲学を学んだ。

解剖学実習を終えて

医学科二年 松丸 麗奈

私が解剖させて頂いたご遺体の胃には大きな病変がありました。満腹に物を食べられず、日々激しい腹痛を起こして大変苦しかったであろうと思います。この病変を見たとき、「この方は病気になるまでの人生をできるだけ限りの範囲でも生きていこうと生きたらどうか」と思いました。

人は誰しも生活や大切な思いを持っていて、病気は、時として治療の副作用も、それを制限することがあります。私は病気がかりに気をとられず、患者さんの思いを大切にしている医師になりたいです。しかし、きつと現実が甘くないでしょう。病気が早く見つかったも患者さんの思いや事情で治療できずに悪化して亡くなることもあれば、故意ではないにしろ、選んだ治療方針が最適でなく、理想とは裏腹に思いを踏みこたしてしまうこともあるだろうと思います。病気だけを診ていたらどれだけ楽だろうかと思いません。しかし、逃げてはならない。人の思いを尊ぶからこそ葛藤を抱き、理想を追いかけられるからです。

ご遺体の方は人生で私が悩むたび原点に立ち返らせてくれる、いわば人生の先生の人です。実習で学んだ思いや考えを胸に、これからも勉強を頑張っていこうと思えます。

ただでなく、医師として不可欠な素養である人体への理解を深めることができ、この実習で得た経験を糧に一層勉学に励むと共に、人格のさらなる研鑽を積んでいきたいと思っています。

最後になりましたが、ご遺体して下さい下さった方々、そしてご家族の方々、友人の方々、この度は私共に解剖学実習の機会を与えて頂き本当にありがとうございました。そして解剖学実習を担当して下さい下さった先生方、未熟な私共を導いて下さり本当にありがとうございました。

医学部こぼれ話

弘前の冬

これからまた寒い冬がやってくる。自分は北海道の出身で子供のころから冬に雪があることが当たり前だった。雪が降り出すと、一年生は初めての雪国の体験となると思う。きつと一度は転ぶことであろう。札幌から弘前に来た自分は当初は札幌の方が雪が多いと思っていたが、実は青森の方が札幌の一・五倍雪が降ると聞いて驚いたことを思い出す。以前は青森の方が弘前よりもはるかに雪が多かったようだが最近はその逆もまた然り。自分分はスキーを趣味としていたので雪が多いことは嫌でないが、自宅の前に雪が降

これは嫌だ。また二月から三月にかけての弘前の町中は最悪である。札幌市はお金がたくさんあるせいか除雪に関しては町の中央はとてもしっかりしていたが、弘前は裏道に入ると道路幅は狭く、雪はぐちゃぐちゃでとても恐ろしい状況になる。そのため、弘前の冬の町中は軽の四駆が最強だと思ってしまう。自分は冬でも裏道を通って大学に通動するので、冬になると家を出る時間が早くなる。しかし雪が溶けても既に体が慣れてしまい同じ時刻に家を出てしまいうため出勤時間がだんだんと早くなってしまった。しかし、しんしんと雪が降る夜は好きだ。

JABSON 66 夏研修 - MAHALO -

医学科六年 堀内 みちる

私はJABSONで、何事にもチャレンジすること、そして「Tri-do」の精神を学びました。今まで海外留学に興味はあるものの、言語や文化の違いなど苦手意識を持っていました。プログラムにはJABSONをはじめ、各地から沢山の学生が参加していました。PBL、模擬患者さんの診察など様々な実習を通して日本との違いを実感しました。また、実践を意識した医療面接などは大変勉強になりました。JABSONの学生ともランチ、Hulaダンスなど文化的な交流をし、友人



留学だより

今回八月十八日(二十五日の一週間という短い期間でしたが、ハワイ大学の夏季研修へ行ってきました。自分は将来的に、国際医療に携わりたくと考えており、英語を勉強していたので、今の自分の英語は実際にアメリカの人たちにどれだけ理解してもらえるか、また相手の英語をどれだけ理解することができるかというところを知ることができるとても良い機会でもあったため、今回の夏季研修をとっても楽しみにしていました。

ハワイ大学での研修を通して、自分の英語力に磨きがかかることができたことが今回の研修の大きな収穫の一つです。授業ではたく

ハワイ大学夏季研修レポート

医学科五年 川岸 慧

今回の研修の一番の収穫はハワイ大学の学生だけでなく、他の大学の方々と仲良くなることのできたことがあります。みんな、積極的に英語をしゃべろうと努力しており、新しいことに対して前向きに取り組んでいく



ハワイ大学夏季研修に参加して

医学部四年 白石 絵美里

初めに、貴重な機会を与えてくださった、弘前市関係者の皆様、弘前大学の先生方、学務の皆様にご心より御礼申し上げます。本研修では主に、PBL、医療面接、診療技術の研修を受講しました。ハワイ大学では、早い時期から診療経験を導入することを目的とし、一、二年次(日本の三、四年次)にPBL、講義、実習を中心とした医学教育を行っています。週



後半は午前中で終わるため、午後は自学自習の時間に当てる学生が多いと知り、日米医学教育のやり取りの違うを実感しました。また、現地の学生が、教科書から学ぶ知識をどのように目の前の患者さんに活かすかを常に考えていると仰っていたことも印象的でした。短期間でしたが、彼らと時間を共にするような方々ばかりでした。また、将来どのような医師になつてどのように医療に携わっていきたいかという考えをしっかりと持っている方々ばかりでした。このような仲間たちと将来医師としてともに働ける日をこれから楽しみにしています。

ハワイ大学夏季研修

医学科三年 山 邊 麻友香

令和元年八月十九日から二十三日の五日間、ハワイ大学医学部の夏季研修に参加させて頂きました。私は留学経験もなければ、英語も得意ではありませんでした。ですが、思い切ってチャレンジしてみようと思ひ、応募しました。その結果、とても貴重な経験ができて、毎日が新鮮で楽しみなことが出来ました。ハワイ大学はPBLで有名な大学で、日本では四年生に行う事を一年生で行なっているそうです。私は三年生で参加したため、知識が浅く、分からない事が多かったのですが、討論を行なった後の自主学習により、三年前期で習った事も交えながら理解する事が出来ました。またこの他にも、医療面接やマネキン



ハワイ大学 Summer Medical Education Instituteに参加して

医学科四年 山 縣 恵茉莉

八月十九日から二十三日までの五日間に渡ってハワイ大学夏季研修プログラムに参加した。主な研修内容としては、PBL、身体診察の練習であった。PBLは、弘前大学では四年生の後期から始まるため、ハワイ大で初めて体験することとなった。大人数での講義で知識をインプットする勉強とは異なり、少人数グループで症例について英語で議論しながら、今まで学んできたことをアウトプットするというスタイルは新鮮であった。PBLを通して、臨床の現場での疾患に対する考察過程を学ぶことができた。身体診察の練習では、患者さんへの

また勉強だけでなく、放課後にはハワイ大学の学生や日本の他大学の学生と交流を深めたり、勉強に対する姿勢なども話を聞くことが出来ました。是非、英語が苦手だと思っている方も勇気を出して参加して欲しいです。最後にこのような素敵な機会を与えてくださった先生方、本当にありがとうございました。これからも日々勉強に励んでいきたいと思ひます。

ハワイ大学夏季研修に参加して

医学科四年 山 田 咲季子

私は八月十九日から二十三日にかけて、ハワイ大学医学部(以下、JABSON)で行われた夏期研修に参加してきました。私がこの研

(次ページへ続く)

(前ページより)

修に参加したのは、海外の医学生がどのように勉強しているかを見て、今後の自分の勉強に生かしたいと思っただけでした。研修自体は短期間でしたが、PBL、医療面接、シミュレーター実習などを体験し、多くのことを学びました。なかでも医療面接では、模擬患者さんに個室で八分ほど禁煙指導を行いました。緊張しましたが、思っていたよりも落ちついて目を見ながら話すことができました。また、模擬患者さんも明るい方、物静かな方など様々な方がいらっしゃったり、使用した部屋に診察台や流しがついていたり和本格的でした。

JABSONは素晴らしい施設や設備があるだけでなく、学生の方たちがとても自主的に勉強されていると感じました。それに加えて、他大学から参加した学生たちが自分の考えを英語ですらすらと伝えてくる姿には大きな刺激を受けました。今回の研修で得た多くの課題をこれからの生活に生かし、よい医師となれるように日々努力していきたいと思えます。今回の研修のために、準備や相談をしてくださった先生方、学務の方々、JABSONの方々



Hawaii大学研修を終えて

医学科四年 藤巻 昂太

この度、Hawaii大学JABSON校で開かれた研修に参加して参りました。将来、臨床医として海外に留学し最先端の医療を学んでみたいという気持ちや、これまでの四年間で培ってきた、自身の医学や英語力などの程度通用するのかなどということに興味があり、そして人一倍ハワイをこよなく愛していたためこの研修に参加できることを大変嬉しく感じておりました。最も楽しみにしていたPBL実習ではいくつかの症例について英語で自分の意見を交えながら討論を進めることができ、自分が今まで勉



強してきた医学の知識が海外の大学でも通用したことに感動しました。模擬患者に対して診察をする実習では、自分が本当に伝えたいことを瞬時に英語で発する

ハワイ大学医学部夏期研修に参加して

医学科三年 相馬 満優子

八月十九日から五日間、ハワイ大学医学部での夏期研修に参加させて頂きました。研修ではPBL (Problem Based Learning) や注射実習、禁煙外来などの実践的な授業が多く、人との関わりを楽しみながら多くのことを学ぶことが出来ました。

研修で特に印象に残っていることは、模擬患者さんとの医療面接です。面接では、自身の英語力の未熟さゆえ、患者さんの目を見て話を聞き、その気持ちに寄



ことが出来ず度々悔しい思いをしました。実習に臨む前までは日常会話程度であれば英語でもなんとかなるだろうと構えていたのですが、将来海外の大学で研修を積み、学会等に積極的に参加するためには英会話力の向上が不可欠であると感じました。この有意義な研修を無駄にするまいと、帰国後は英会話教室に通ったりUSMLEを受験するため勉強をしたりと、日頃から英語に触れる機会を増やす努力をしております。結び、このような貴重な経験をするにあたりご協力いただいた方々に感謝申し上げます。

三沢米軍基地病院での実習を終えて

医学科五年 下鳥 泰大

私は夏季休業の五日間、三沢米軍基地病院で実習をさせて頂きました。この期間の宿泊はホームステイで、私は米軍基地のTOPAという部署(米軍基地病院と日本の病院間で書類の手続きをする部署)で勤務されています。Honeycuttさんのお宅でお世話になりました。米軍基地での実習については他の方が書いてくれると思うので省略したいと思います。

このプログラムに応募したきっかけは、とにかく英語を喋ってみるという経験をしたかったからです。有難いことに私は昨年もハワイ大学で行われる夏季セミナーに参加させて頂いたことがあり、英語に携わることが出来たことが嬉しかったです。中でも私に影響を与えたのは小児科でした。小児科医のDr. Parkinsonに指導していた

三沢米軍基地実習を終えて

医学科五年 外崎 龍一

私は八月九日〜八月十三日の五日間、三沢の米軍基地実習に行ってきました。ルーテーション科としては、Urgent Care Unit, General Surgery, Pediatrics, Mental Healthでした。病院の特徴は患者が軍関係者、その子供達ということ。また軍外の外国人の方で、説明と治療はアメリカ人医師がいる病院で受けたい、そういった方も来院していました。担当医のDr. Biterlyは一般外科医で、一緒に虫垂炎手術の術野に入り日本と



アメリカでは手術適応、保存療法が違うことを教えて頂きました。中でも私に影響を与えたのは小児科でした。小児科医のDr. Parkinsonに指導していた。子供達(Well-being)を測る途中で私は子供達と会話しながら、Dr.の診断を聞いて勉強することができました。精神科も興味深く、fight medicineなど、パイロットに必須としてなると精神薬を処方していったし、軍敷地内では生活できない思春期の子の心理ケアなど、まさに軍特有の一面が見られたと思っております。どの教官も指導熱心で、鑑別を上げて、必要な検査は、など非常にトレーニングになる経験でした。電子カルテシステムには軍規則があり、三段階認

すことができました。

最後になりましたが、大学から提供されているプログラムは参加してみると、何かしら得られるものがあります。少しでも興味を持っていただければ是非参加してみたいと思います。



状況は少なかつたです。従って、当然英語を使わざるを得ない状況になりました。このような状況で、昨年できなかったとにか英語を喋ってみることができました。今考えると、本当にちぐはぐな英語でしたが、出会った皆さんは親切に耳を傾けてくれました。ちぐはぐでも意外と通じることが多く、またステイ先に帰った後に「こうやって言えばよかったのか」とすぐに自分でフィードバックできました。昨年に続き、非常に有意義な時間を過ご

三沢米軍基地病院実習を終えて

医学科五年 内田 烈雄

令和元年八月五日から五日間、三沢米軍基地病院にて精神科/内科/救急科/小児科/産婦人科を各一日ずつ周り、外来診察を中心に見学させて頂きました。

精神科では米国人医師が医療面接した後、症例の検討や治療方針のReviewを日本人インタンの医師とともに受けました。インタンは米軍病院では手に余る症例を設備の整った日本の病院へ搬送する際に双方の仲立ち業務を担うようで、当然ながら高いレベルで会話を成立させており、聞き取りに精一杯だった私は初日から圧倒されてしまいました。

三沢ではDr. Coswin夫妻の家にステイさせて頂きました。夫妻はハワイ出身の日系三世で、自分のルーツである日本を知りたいという思いから三沢にいらつしゃった方々。ちょうど私は部活で茶道を習っていたため、弘前から持参したお抹茶を点ててふるまいました。日本文化を体験してもらい、お茶も気に入っていただけただけで嬉しかったです。

また、基地病院とステイ先との往復の毎日で英語漬けだったため、英会話も徐々に上達しました。最終日に連れて行っていただき

(次ページへ続く)

(前ページより)
いたOnPageの料理店で、
夫妻のために「英語のメ
ニューありますか」と日本
人の店員さんに英語で尋ね
てしまう程に思考のベース
が英語になっていました。
紙幅の都合で本実習の魅
力を語りきれませんが、日
本にいながら米国式の医療
を体験できました。このよ
うな貴重な機会を与えて下
さった米軍基地、本学関係
者の方々に深く御礼申し上

門をくぐるその日は アメリカだった。

医学科五年 久保田 泰弘



げます。ありがとうございます。

「Misawa Air Base、そう
書かれた門をくぐると、歩
く人、車、標識、その全て
がアメリカでした。私は三
年次にハワイ大学医学部で
のPBLワークシヨップに
参加しましたが、三沢米軍
病院では実際に臨床現場で
実習することができ、今回
は五年生となった自分の医
学知識や英語力を実践で試
してみたいという思いで参
加させて頂きました。結果
としては、いざれにおいて
も悔しい思いをすることが
多く、自らの未熟さを痛感
すると同時に、今後は医学
にせよ語学にせよ、世界で
の共通言語として「使う」
ことを意識したトレーニング
が必要であると強く感じ
ました。また、アメリカの
臨床現場を目にするのは今
回が初めてでしたが、何よ
り私の印象に残ったのは丁
寧な患者教育です。医師は
疾患についての情報を分か
りやすく伝え、患者さんご
自身も納得しながら治療に
参加することができていま
した。患者教育は恐らく今



ていただき、基地内での
お世話になった先生に誘っ
ていただきました。また実習で
過ごしました。また実習で
お世話になった先生に誘っ
ていただき、基地内での

三沢米軍病院での実習を 振り返って

医学科五年 工藤 甚子

三沢米軍病院での実習は
一年の時に実際に行った先
輩の話を聞いて五年になっ
たら行ってみたいと思っ
ていたのですが、実際申し込
みの時になると自分の英語
力の無さからこんな自分が
行っても大丈夫だろうか
と申し込むかどうか大変悩
みました。しかし、ここで行
かなくては絶対後悔するだ
ろうと思えば英語力はこ
れから考えようと思っ
て回参加させていただけま

では彼女のお仕事について
行ったり、彼女の同僚も交
えてお喋りしたりしていま
した。夜は英語と日本語を
互いに教え合い二人で勉強
をしました。二人で夜遅く
の映画を見に行き、疲れ
て映画の途中から二人で寝
たことも思い出しています。
病院での実習では救急、
産婦人科、整形、小児科と
Family Practiceと呼ばれる
科をまわりました。未熟な
英語力の私にも丁寧に説明
してくださり、皆親切な先
生ばかりでした。実際の診
療を見学させていただいた
のですが、診察の雰囲気
が日本と全然違い驚くこと
ばかりでした。診療の合間
に廊下で腹筋ローラーをし
ていた先生の姿は忘れな
いでしょう。



今回の実習を通して感じ
たことはやはり英語をも
と勉強するべきだと思
いました。もっと多くのこ
とを経験するために、
もっと人生を楽しむた
めツールとして英語は重
要であると思いました。今
も十分多くの経験をさせ
ていただき、たくさん楽し
ませていただいたのですが、
もう少し英語が話せたら
ないだろうかと思いま
した。そう思えた今回の
経験をこれから活かした
いと思います。

は毎日台北の病院に通
ってました。七時三分頃
から朝のミーティングが
あり、簡単な朝ごはんが
出るの、朝食をとりなが
ら先生たちが話していま
した。一週目は、産科で
は大学病院での実習と同
様に分娩を見学させて
もらいました。婦人科では
子宮筋腫や奇形腫などの
手術を見学しました。処
置等がないときは病棟
の本を借りて勉強して
いました。また、私た
ちのために一・二時間の
レクチャーを二回してもら
える機会がありました。
二週目の麻酔科では、術
中麻酔を見学しました。毎
日一人の指導医のもとで
見学して、丁寧にレクチャー
を受けた後に喉頭鏡など
を用いて気道確保をさせ
てもらいました。台湾では
麻酔を専門に行う看護師
が主に行うため、麻酔科
医の数は少ないこと
でした。全身麻酔では大
学病院ではTIVAが多
かったですが、MMHでは
吸入麻酔が多かったです。
また、神経ブロックや硬
膜外麻酔、脊髄も膜下
麻酔がより多く行われ
ていました。
三・四週目の一般内科
では、常勤医一人、レジ
デント一人が主に私を担
当してくださって実習を
行いました。外来ではH
IVなどの感染症患者
の診察を見学しました。
病棟では、実習中に
日本人患者が入院して
日本語で会話して聞
いた内容を先生に伝え
る機会がありました。レ
ジデントからは感染
症について何度もレ
クチャーを受けて実践
的な抗菌薬の使い方を
学ぶことができました。

海外臨床研修を体験して
Mackay Memorial Hospital の
ユニカルトレーニングを終えて
医学科六年 高橋 弘樹

(1) なぜそこを選んだのか

昨年度からクリニカル
ワークショップで台湾を実
習先で選べるようになった
話を聞いて、海外の医療
に接する機会を魅力に感
じ、ぜひ自分も行ってみ
たいと思志望しました。昨
年度、台湾からの実習生
の一人が私たちの実習班
と一緒に実習をしていて、
その時に台湾の学生たち
と充実した交流ができた
ことも台湾での実習を希
望するきっかけの一つ
となりました。

(2) 実習内容

一週目に産婦人科、二週
目に麻酔科、三・四週目
に一般内科の感染症グル
ープで実習を行いました。
Mackay Memorial Hospital
(MMH) は台湾国内にい
くつかの分院があり、私
たちは淡水の病院に併設
している寮に住んでいて、
淡水で実習を行った二週
目の麻酔科以外の一・三・
四週目

(3) 実習を終えての感想

実習に関しては、台湾は

医療の環境が日本と似
ていて感じました。一方、
院内のWiFiを使えば個人
のスマートフォンやタブ
レットからカルテなどを
閲覧可能であるため、外
来見学などは日本より有
意義だと感じました。私
は中国語が分からないた
め、医療者同士の会話
が分からないのが残念
でした。台湾の方々と少
しでも交流するために、
ある程度中国語、台湾
語を学んでから台湾に
行っていただけるといい
と思います。また、台湾
の医学教育は英語で行
われているため、先生
方の話す英語の医学英
語が分からず苦労した
こともよくありました。日
本語で正しく理解して
いけば用語が分からな
くても何について話して
いるか理解できるため、
もっと勉強しておけば
良かったと感じました。
台湾での生活について、
海外での実習というこ
とでは緊張感が大きか
ったのですが、どの先生
もとても親切で充実した
実習を行うことができました。
三・四週目の一般内科
では、常勤医一人、レジ
デント一人が主に私を担
当してくださって実習を
行いました。外来ではH
IVなどの感染症患者
の診察を見学しました。
病棟では、実習中に
日本人患者が入院して
日本語で会話して聞
いた内容を先生に伝え
る機会がありました。レ
ジデントからは感染
症について何度もレ
クチャーを受けて実践
的な抗菌薬の使い方を
学ぶことができました。

医療の環境が日本と似
ていて感じました。一方、
院内のWiFiを使えば個人
のスマートフォンやタブ
レットからカルテなどを
閲覧可能であるため、外
来見学などは日本より有
意義だと感じました。私
は中国語が分からないた
め、医療者同士の会話
が分からないのが残念
でした。台湾の方々と少
しでも交流するために、
ある程度中国語、台湾
語を学んでから台湾に
行っていただけるといい
と思います。また、台湾
の医学教育は英語で行
われているため、先生
方の話す英語の医学英
語が分からず苦労した
こともよくありました。日
本語で正しく理解して
いけば用語が分からな
くても何について話して
いるか理解できるため、
もっと勉強しておけば
良かったと感じました。
台湾での生活について、
海外での実習というこ
とでは緊張感が大きか
ったのですが、どの先生
もとても親切で充実した
実習を行うことができました。
三・四週目の一般内科
では、常勤医一人、レジ
デント一人が主に私を担
当してくださって実習を
行いました。外来ではH
IVなどの感染症患者
の診察を見学しました。
病棟では、実習中に
日本人患者が入院して
日本語で会話して聞
いた内容を先生に伝え
る機会がありました。レ
ジデントからは感染
症について何度もレ
クチャーを受けて実践
的な抗菌薬の使い方を
学ぶことができました。

台湾での実習を終えて

医学科六年 各務 萌

私は七月の一月間、台北
市にあるMackay Memorial
Hospitalで実習をさせて
もらいました。元来英語は
好きでしたが、さほど海外
経

最後に、台湾での実習の
機会をくださった袴田先
生、許先生をはじめとする
先生方、学務の方々、台湾
でお世話になった医療者、
秘書の方々に御礼申し上げ
ます。本当にありがとうございました。



(前ページより)
 験もなく、医学英語もきちんと覚えきれない自分にとって、この留学はとて大きな挑戦でした。しかし、一か月を振り返ると、毎日がとても刺激的で、沢山のことを学んで帰ることができました。

まず、一週目は産婦人科で実習を行いました。朝は七時三十分からの morning meeting に参加しました。基本は中国語でのプレゼンですが、スライドは英語なのでなんとか理解することができました。morning meeting では必ず朝食がもたらえて嬉しかったです。その後は病棟実習か手術見学でした。病棟実習では先生が私たちのために英語でレクチャーしてくださり、女性の急性腹症や出産の手順について解説してくださいました。手術見学では先生方が適宜解説して下さい、またどんな些細な質問でも丁寧に答えて下さったため、とても勉強になりました。



二週目は小児科でした。

部活動紹介

剣道部

医学科三年 池崎 裕介

弘前大学医学部剣道部は、大正十年(旧制官立弘前高等学校時代)に設立された剣道部から弘前大学剣道部医学部を経て現在に至る。小児科も同じよう morning meeting から始まり、その後はレクチャーがあり、NICUの見学や未熟児についての解説、また発達外来なども見学させて頂きました。産婦人科での失敗を生かそうと、事前に勉強していったので何とかついていく事ができました。毎日帰るとわからなかった事を調べ、日々があつという間に過ぎていきました。

三、四週目は消化器内科でした。先生方はとても優しく、患者さんと先生とのやり取りを英語で私に通訳してくださいました。沢山の質問も飛んでくるので毎回ドキドキでしたが、なんとか理解でき、時には自分から質問をしてディスカッションをする事ができました。

最後に、この留学は自分にとって大きな挑戦でしたが、英語力が上がったのは間違いありません。このような貴重な機会をいただいたことにとても感謝しています。海外留学に興味のある後輩の皆さんには、是非とも挑戦して頂きたいです。



私たちが東医体・北医体での入賞を目標の一つに掲げています。十年ほど前までの剣道部は東医体や北医体で連覇を重ねる、かなり



の強豪校でした。しかしながら、ここ数年は部員の確保も難しく、特に団体戦では規定人数に達しないため出場を諦めざるを得ないこともありました。こうした状況を脱すべく、新勧等に尽力し、一時は存続さえ危ぶまれた部員数が徐々に増加しつつあります。部員確保をはじめとする根本からのチーム再生で、古豪復活を目指します。

我々のもう一つの目標は「剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である」という理念に基づく自己の修養です。剣道は、勝利至上主義の「スポーツ」ではなく、あくまで稽古を通じて「道の追求」であることにその重みがあります。剣道の稽古ではたとえ、酷暑や厳寒の時期は忍耐を、相手を竹刀で打ち込んで技術を習得していくなかで礼節を、対戦後には友好などといった精神を学ぶことができます。大会がある以上、競技性の側面は無視できませんが、勝敗に無理にこだわらず、将来医師として求められる人格を完成させていきたいと思っています。

最後にになりましたが、我々がこうして稽古し大会に参加できるのも、部長である中村和彦教授やOB・OGの先生方のおかげです。剣道部を応援し支えてくださる皆様、この場をお借りして感謝申し上げます。

空手道部

医学科三年 島 貴子



私たち医学部空手道部は文京キャンパスの武道場で練習しています。活動は平日週三日、全学の空手道部と一緒に活動しています。部員は全学も含め四十名程、医学部だけでは十三名です。空手は来年からオリピック競技になるということもあり、現在注目の集まっている武道となつています。空手は初心者でも比較的の上達しやすいというのが魅力です、加えて競技人口がそれほど多くないので医学部の大会では初心者も努力次第で好成績が望めます。

空手は形、組手と二種類の競技があり当部活では両方練習を行っています。形に重きをおいて練習する人もいれば組手中心で練習する人もいます。また両方同じくらいの度合いでやる人もおり、スタイルは人それぞれで練習に臨んでいます。医学の大会は初夏に北医体、夏に東医体、秋には女子のみで行う、女医体があり、それぞれの大会で勝つために練習しています

が、最も私たちが重要視しているのが東医体です、大会前には土曜練習を医学部の部員だけで行っています。今年二〇一九年の東医体では男女で総合優勝という好成績を納めることが出来ました。試合の競技は形、組手の二つでそれぞれ

Medical Cool Quartet

医学科三年 大庭 岳



弘前大学には軽音サークルが五つあります。その中で唯一、医学部に本拠地を置いているのが、我々 Medical Cool Quartet (通称MCQ)です。発足当初は医学科の学生のみによる少人数サークルでしたが、現在では他の学部学科も加えて百人近くに及ぶ大所帯で活動しています。MCQの活動は自由度が高く、自分のやりたい時に、好きな相手と、好きな音楽を楽しむ事が出来ます。大学から楽器を始めたばかりの部員も数多く在籍しています。楽器ごとの講習会等を開催して部員同士で教え合うことにより、バンドという枠を越えて部員一同日々切磋琢磨しています。

主な活動は、弘前市内のライブハウスで行う月一回程度のライブです。その他、弘前大学総合文化祭で行う「学祭ライブ」、OB OGの先輩方と一緒に「OBライブ」、弘前大学の五つの軽音楽サークルが合同でライブを行う「Music Cube」、北海道・東北地方とでさらなる成長につながっていると実感しています。

の様々な大学の医学部軽音部と合同でライブを行う「北医音」など、数多くのイベントへの参加や開催を行っています。北医音では、昨年は秋田、今年は仙台に遠征し、我々弘前大学MCQが二年連続で優勝を果たすことが出来ました。

多くのMCQのライブは、MCQ関係者以外も自由に見ることが出来ますので、少しでも興味を持たれた方は是非遊びにいらしてください。また、MCQのライブに出てみたいとお考えの方がいらっしゃいましたら、SNSなどでは是非相談ください。現在MCQは、数多くのOB OGの方々と、弘前大学医学部に関係する方々との交流や合同ライブを行っています。私たちが学業に勉めな

(次ページへ続く)

写真コラム(6) 茂森町の造り酒屋

脳血管病態学講座
教授 今泉忠淳

医学研究科の正門を出て、左へ向かい、在府町の緩やかな坂を上っていくと徒歩数分で茂森町の通りに出ます。突き当たりが酒舗成豊です。酒舗成豊は、もともとは昭和7年建築という趣のある建物です。現在は小売りですが、昔は酒造りをしていました。酒舗成豊に向かって右隣が玉田酒造です。玉田酒造は、江戸時代の宝暦年間(西暦1751-1764年)以前の創業で、津軽藩の御用達であったということですから、老舗です。レンガ造りの煙突が印象的です。【写真1】は1989年の撮影です。道路の拡幅工事があって建て替えられ、2018年には【写真2】のようになっています。



【写真1】玉田酒造. 1989



【写真2】玉田酒造. 2018

酒造りに重要なのは、米、麴、酵母はもちろんですが、よい水が重要です。日本各地の酒どころにはよい水がありますが、玉田酒造では岩木川の伏流水を使っているということです。つまり、白神山地のブナの森で蓄えられ、ろ過され、地下を流れてきた水です。白神山地に思いを馳せながらお酒をいただくのもよいでしょう。すぐ近くに、江戸時代から続く造り酒屋がある医学部は、全国でも数えるほどしかないのではないのでしょうか。「弘前大学医学部の近所で醸されたお酒です」と、お土産にもよいと思います。

東日本医科学生総合体育大会、通称東医体は東日本医科学生体育連盟が主催する大会です。各加盟校には参加、理事、評議員がおり、本学の参加は若林孝一医学部長、理事は今泉忠淳教授



(前ページより) からも音楽活動を楽しみ事が出来るのは、度々支援してくださる弘前大学医学部の先生方やOBOGの方々、そして今年度まで長い期間顧問を引き受けて下さった福田幾夫先生のお陰です。この場を借りて感謝申し上げます。そして、我々はこのからも音楽を通じて様々な交流を広げ、部員一同楽しんで音楽活動を続けていくつもりです。今後とも弘前大学MCQを宜しくお願い致します。

で、評議員は代々バレーボール部の主務が務めさせていたお借りしております。評議員として六十以上の歴史ある大会に携われること

を大変嬉しく思っております。精一杯努めてまいりたいと思います。令和元年度の第六十二回

第62回

東日本医科学生総合体育大会 夏季競技を終えて

女子バレーボール部 主務 別府佳奈

(表) 令和元年度 第62回東日本医科学生総合体育大会夏季競技の主な好成績

空手部	男子	総合		優勝
	女子	総合		優勝
	男子	団体	形	優勝
	女子	団体	組手	準優勝
	男子	個人	形	横山理久斗(2年) 準優勝
	男子	個人	組手	井上喬二郎(6年) 準優勝
	男子	個人	組手	横山理久斗(2年) 3位
	女子	個人	組手	海老名日奈子(4年) 優勝
	女子	個人	組手	島 貴子(3年) 準優勝
陸上部	女子	円盤投	浦田 風(6年)	優勝
	女子	100m	中村 優希(6年)	3位
ラグビー部				準優勝
				準優勝
ソフトテニス部	女子	団体		準優勝
	女子	個人	市沢 歩美(5年)・岩淵 那海(2年)組	準優勝
卓球部	男子	団体		準優勝
	女子	団体		4位
	男子	シングルス	小田桐直生(6年)	準優勝
水泳部	女子	200m 自由形	岩下 葵(3年)	3位
	女子	400m 自由形	岩下 葵(3年)	2位
				準優勝
バドミントン部	女子	団体		準優勝
	女子	ダブルス	吉田麻梨乃(5年)・荒川夏々果(3年)組	3位
				4位
弓道部	団体			4位
	女子	個人	三上 花子(6年)	準優勝
	女子	個人	西川 晴菜(2年)	3位
準硬式野球部				3位
バスケットボール部	女子			4位

東日本医科学生総合体育大会夏季競技は、新潟大学の代表主幹で、例年通り八月に開催されました。本学の夏季競技終了時点の総合成績は全参加校三十八校のうち第五位と健闘し、多くの部活で優秀な成績を収めることができました。本学の主な成績を表に示しましたので、ご覧ください。なお、冬季競技のスキーは三月に長野県の菅平高原で開催されます。

東日本医科学生総合体育大会夏季競技は、新潟大学の代表主幹で、例年通り八月に開催されました。本学の夏季競技終了時点の総合成績は全参加校三十八校のうち第五位と健闘し、多くの部活で優秀な成績を収めることができました。本学の主な成績を表に示しましたので、ご覧ください。なお、冬季競技のスキーは三月に長野県の菅平高原で開催されます。

放射線腫瘍学講座

放射線腫瘍学講座 教授 青木昌彦

放射線腫瘍学講座の前身である放射線科学講座(旧放射線医学講座)は、昭和二十二年に青森医学専門学校の弘前移転とともに開講され、初代高橋信次教授、二代篠崎達世教授、三代竹川鉦一教授、四代阿部由直教授、五代高井良尋教授の時代を経て、平成二十九年より青木が担当しており、平成三十年より放射線科学講座から分離した放射線腫瘍学講座を青木が引き継ぎました。

放射線腫瘍学講座のスタッフは教授以下七名で構成され、悪性腫瘍を主な対象疾患とする放射線治療を担当しております。放射線治療には高エネルギーX線や電子線を体の外から照射する外部照射のほか、ラジオアイソトープが密封され

た小線源を腫瘍に挿入して照射を行う密封小線源治療、ラジオアイソトープを直接人体に投与して放射線を照射する核医学治療など、多くの治療法があるのが特徴です。その守備範囲はほぼ全身と言っても過言ではありません。治療実績は年間の新規患者数で約六百件、再照射などの再患も含めた実患者数で約七百件と多くの治療を担当しております。

放射線治療の特長は、体への侵襲が少ないこと、機能と形態を温存できることなどが挙げられますが、近年、放射線治療の進歩はめざましく、定位照射・強度変調放射線治療・画像誘導放射線治療など高精度な治療技術が導入された結果、重篤な副作用もほとんどなく、根治できる悪性腫瘍が増えています。年々進歩する放射線治療に対応するために我々も日々研鑽を積んでいるところではありますが、より負担の少ない高精度治療を求めている患者さんが増えた結果、治療計画の順番待ちをする待機リストに名前を連ねる患者さんが増えているのが現状です。(次ページへ続く)

研究室紹介



放射線診断学講座

放射線診断科 講師 三浦弘行

(前ページより)
す。もう一台、高精度放射線治療に対応する医療用直線加速器の導入を実現できないものかと模索してあります。将来的には、サイクロトロンの小型化とコストダウンにより、高エネルギーX線から陽子線や中性子線など、粒子線の時代が来るものと考えており、是非とも皆様のご理解とご協力をお願いしたいと思います。

さて、放射線治療で根治可能な癌が増えたと言っても、まだ充分とは言えない状況もあり、難治癌克服のための研究として、画像診断技術を駆使した予後予測の研究、低酸素細胞を中心とした放射線生物学的研究、BNCTの基礎的研究など、臨床から基礎まで幅広い研究活動も積極的に進めてまいります。青森県の短命県返上と、どの地域で

暮らしていても青森県民が安心してがん治療を受けられる環境の整備が当講座の大きな目標のひとつです。放射線腫瘍学講座のみでは達成は不可能であり、多くの診療部門・診療科のご協力が必要です。今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。



医学や医療に携わる方であれば、放射線科、放射線診断科は欠くことの出来ない、infrastructuralな診療科であることをご存じない方はいらっしゃるのではないでしょうか。しかし、かつて私が放射線科に「入局」(当時)

は、学内でも知られていないこともあり、辛い思いをすることもありました。それが近年の医療機器やコンピュータ技術の進歩、多岐に渡るデマンド、IVR (interventional radiology) の発展等により、放射線科学はわずか三十余年で類を見ない急速な進歩を遂げました。

そのような状況で、放射線科学講座は放射線腫瘍学講座と放射線診断学講座に分かれました。そして令和元年七月一日、放射線診断科に掛田伸吾教授が着任されました。九州の地からいらした掛田先生は、当教室に着任早々「このような素晴らしい幸せな教室は他にない」としみじみおっしゃいました。我々にとっては西日本の放射線診断科といえば、教室員が多く、勢力も強大、きつとブイブイいましてるんだろうな(個人の意見です)、と思っていたので、意外に感じました。

しかし、今のX線CTの祖と言いきる回転横断撮影装置を開発された高橋信次初代放射線科教授から連続と続く当教室は、最近退職された小野修一前准教授のご指導の下、西日本に比べたら圧倒的に少ない人員にもかかわらず、質の高い画像診断を心がけ、その全てを検査翌日までに各診療科にレポートしてまいりました。また、IVRは二十四時間対応できる体制を少ない人員ながら協力し合って整えてまいりました。一方、こんな忙しい中でも、「やりがい搾取」のような状況にはならず、アットホームで自主的に行動できる雰囲気大事にしてまいりました。掛田教授着任後も、個性を尊重し、様々な領域への興味を最大限に伸ばすような環境づくりと教育体制を日々模索してまいります。最近では学術面でも論文や受賞も徐々に増え、若手が学会で活躍する機会も多くなってきました。今後は掛田教授の下で、より強固かつ確実なものにしていきたいと考えています。

公益社団法人 青森医学振興会

沿革 平成11年3月1日 弘前大学医学部医学科後援会 鵬桜医学振興会発足(任意団体)
平成24年4月1日 公益社団法人青森医学振興会設立許可(青森県)

振興会では、21世紀の青森県の医学・医療を積極的に支援しようとする事業を行っております。

- 医学教育の助成 教育活動を活性化するための支援
- 医学研究の助成 研究活動を高度化するための支援
- 地域医療振興事業の助成 地域医療に貢献するための支援
- 医学国際交流の助成 国際学術交流の支援

随時、会員の募集とご寄附の受付をしております。
会費と寄附金の納入方法は下記の通りです。

口座名	社団法人 青森医学振興会		
口座	青森銀行 弘前支店	普通 1087485	※ 各銀行の本支店及び
	みちのく銀行 大学病院前支店	普通 0198579	ゆうちょ銀行から振込む
	ゆうちょ銀行振替(旧郵便振替)	02200-4-57580	場合は、手数料無料です。
会費	会員種別	年会費	お振り込みいただく場合は、 お手数ですが、振興会事務局まで ご連絡(電話、メール)願います。
	医学部教員	1万円	
	医学部卒業生	2万円	
	賛同する個人 賛同する団体	1万円 10万円	

お問い合わせ TEL:0172(33)5111内線6519 E-mail:jimu@aomori-mpm.jp

ATVテレビ診療室に出演して

歯科口腔外科学講座 教授 小林 恒

本年七月七日、十四日、二十一日、二十八日の四日間、ATV「テレビ診療室」で口腔内の疾患についてお話しする機会を頂きました。口腔内の疾患として、う蝕と歯周病が代表的なものであり、特に歯周病は人類史上最も感染者の多い疾患として二〇〇一年ギネス世界記録にも認定されています。最近、舌癌に罹患して手術を受けた芸能人が話題となり口腔がんについても認知されてきました。他にも多くの疾患があります。テレビ診療室では

う蝕や歯周病が原因となつて生じる重篤な炎症性疾患の他、顎関節の疼痛、雑音、開口障害が症状である顎関節症、口腔がんが代表的な口腔腫瘍、口腔心身症でもある舌痛症、手術でかみ合わせを治す顎変形症治療についてお話ししました。

芸能人の舌癌報道により人々の関心が強くなったためか、口腔がんを心配して受診する患者さんが急増しました。口腔がんは日常生活のQOLに大きく影響する疾患です。早期発見早期治療により障害も少なく治

ATVテレビ診療室に出演して

輸血・再生医学講座 教授 玉井佳子

六月二十三、三十日の二日間にわたり、「輸血」に関する話題提供をさせていただきました。平成二十二年にも一度出演したのでありますが、まずは健康サポーターとして聞き手をしてください。千葉美佳さんの、以前より更に若々しく素敵なお姿と声に感嘆しました。

第一回は、輸血の必要な病気と献血の現状についての話です。近年の医療技術は驚異のスピードで発展し、十年・二十年前には救

えなかつた多くの命が助かるようになってきました。どんなに外科技術が向上し、救急・急性期医療や移植医療が発展しても、これらの治療は「輸血」なしでは遂行不可能です。輸血は悪性新生物(がん)の患者が最も使用します(全体の三八%)。そして、輸血は五十歳以上の患者が八五%以上を使用しています。一方で、献血者の七〇%は五十歳未満の方で支えられ

(次ページへ続く)

癒可能な疾患ですが、進行してからの手術となると術後の機能障害も大きく、QOLの低下は無視出来ません。最近では進行癌でも超選択的動注化学放射線治療により手術をせずに治療が可能となつています。番組では口腔がんの初期症状と治療法について説明しました。口腔機能として咀嚼が重要ですが、多くの皆さんは歯さえあれば咀嚼ができると思つています。しかし歯だけあつても咀嚼はできません。動く舌(機能する舌)が有り、頬筋に裏打ちされた頬粘膜があつて初めて食物を歯と歯の間に維持することが出来、咀嚼することが出来ます。つまり、舌の大半を切除してしまつと、嚥下するだけになってしまい義歯を入れる意味はなく、逆に言えば歯が邪魔にさえなることもあります。

歯周病は糖尿病の第六番目の合併症としても知られていますが、他にも様々な影響を与えています。特に番組では若木健康増進プロジェクトのデータから口腔と全身との関係で得られた結果も含めて、糖尿病、誤嚥性肺炎、四肢筋力と口腔の関係について説明しました。口腔管理が全身疾患の治療の助けとなることも多く、日頃のメインテナンスの重要性をお話しして四回の番組を終りました。



(前ページより)
ています。若年層(三十代未満)の献血人口が激減しており、二年前には『二〇二七年には延べ八十五から百万人の献血者が不足する』という試算が出されました。このため、適正な輸血(不要な輸血を避ける)の方策、献血推進対策、献血者からの安全な高単位採血方策等に対応している現状を伝えました。献血のお願いも併せて行いました。

第二回目は、輸血を受けることのメリットとデメリットについての話です。身体に不足している血液成分を輸血によって補うことで、より安全に原疾患の治療を進めることができま

す。その一方で、他人の血液細胞や血液成分が血管内に注入される輸血では、どんなに注意しても一定の割合で副作用が発生します。輸血して早期に生じる即時型(急性)副作用と、数日から数年を経て生じる遅発性副作用について説明しました。さらには、献血に頼らない「自己血輸血」についても紹介しました。特に、予定手術の場合に自己血輸血を考慮することは、他人の血液が体内に入ることによって生じる免疫反応を回避するとともに、機能的状況にある献血血液使用の削減にもつながるメリットがあります。

自己血輸血は施行できない医療機関も青森県内には多く存在します。今回の機会をいただき、当院麻酔科・手術部で施行されている希釈式自己血輸血の有用性・貢献度を自分自身強く感じました。この場をお借りして、関係者各位に心より御礼申し上げます。

DMATは「災害急性期に活動できる機動性をもったトレーニングを受けた医療チーム」と定義されています。通常医師二名看護師二名業務調整員(ロジスティクス)一名で構成され、大規模災害や多数傷病者が発生した事故などの現場で活動します。一九九五年の阪神淡路大震災の教訓をもとに、日本では初めて災害医療体制、すなわちDMAT、災害拠点病院、広域搬送、EMIS (Emergency Medical Information System) が整備されました。阪神淡路大震災では自身が被災してスタッフも少なく水や医薬品も足りない地域に非常によく多数の患者が殺到しました。一方で少し離れた大坂市内などの病院には、電話が通じない・搬送手段がない・道路や橋の損壊と渋滞といった理由でほとんど搬送されませんでした。その結果、防ぎえた災害死と考えられる症例数が五百例になったと分析されました。この医療供給のアンバランスをなくして、多くの災害における傷病者がより適切な医療を受けられる仕組みとしてDMATが組織されました。医療を提供する場として災害拠点病院が、情報をやり取りする仕組みとして

このアンバランスに対応するために

治療対象

DMAT Disaster Medical Assistance Team
大規模災害発生時に、専門知識と経験を有する医療従事者から構成され、被災地に派遣される。被災地に於ける急性期の医療提供を目的とする。(日本DMAT協議会)

EMIS Emergency Medical Information System

DMATの活動

- 本部活動
- 病院支援(診療支援、病誌運搬支援)
- 現場活動(救護所、救助現場)
- 地域医療搬送
- 広域医療搬送(機内活動、SCU活動)
- 避難所救護所活動
- その他

地域医療搬送と広域医療搬送

地域医療搬送
2011年 東日本大震災
仙台市中央市民病院
花巻市立総合病院
A-J DMAT 活動中
花巻から五里病院へ

広域医療搬送
2011年 東日本大震災
仙台市中央市民病院
花巻市立総合病院
仙台から五里病院へ

道胆振地震でも活動してきました。今年の台風十九号による災害においても活動しております。当初は四十八時間を目安とした活動が考えられていましたが、東日本大震災の活動経験から、急性期の救急医療の提供のみならず、急性期から避難所生活安定までの活動を行っています。

日本は災害大国です。災害時における医療活動は現場だけでなく、ある時は当院が広域搬送患者の受け入れをすることが予想されます。また、青森県で大きな災害が発生した場合は当院で多くの患者とともに、たくさんの方のDMATを受け入れることとなります。皆様の災害医療に関するご理解とご協力をお願いいたします。

DMATは「災害急性期に活動できる機動性をもったトレーニングを受けた医療チーム」と定義されています。通常医師二名看護師二名業務調整員(ロジスティクス)一名で構成され、大規模災害や多数傷病者が発生した事故などの現場で活動します。一九九五年の阪神淡路大震災の教訓をもとに、日本では初めて災害医療体制、すなわちDMAT、災害拠点病院、広域搬送、EMIS (Emergency Medical Information System) が整備されました。阪神淡路大震災では自身が被災してスタッフも少なく水や医薬品も足りない地域に非常によく多数の患者が殺到しました。一方で少し離れた大坂市内などの病院には、電話が通じない・搬送手段がない・道路や橋の損壊と渋滞といった理由でほとんど搬送されませんでした。その結果、防ぎえた災害死と考えられる症例数が五百例になったと分析されました。この医療供給のアンバランスをなくして、多くの災害における傷病者がより適切な医療を受けられる仕組みとしてDMATが組織されました。医療を提供する場として災害拠点病院が、情報をやり取りする仕組みとして

DMATは「災害急性期に活動できる機動性をもったトレーニングを受けた医療チーム」と定義されています。通常医師二名看護師二名業務調整員(ロジスティクス)一名で構成され、大規模災害や多数傷病者が発生した事故などの現場で活動します。一九九五年の阪神淡路大震災の教訓をもとに、日本では初めて災害医療体制、すなわちDMAT、災害拠点病院、広域搬送、EMIS (Emergency Medical Information System) が整備されました。阪神淡路大震災では自身が被災してスタッフも少なく水や医薬品も足りない地域に非常によく多数の患者が殺到しました。一方で少し離れた大坂市内などの病院には、電話が通じない・搬送手段がない・道路や橋の損壊と渋滞といった理由でほとんど搬送されませんでした。その結果、防ぎえた災害死と考えられる症例数が五百例になったと分析されました。この医療供給のアンバランスをなくして、多くの災害における傷病者がより適切な医療を受けられる仕組みとしてDMATが組織されました。医療を提供する場として災害拠点病院が、情報をやり取りする仕組みとして

人事異動 (R1.9.1 ~ R1.11.30)

● 医学研究科

【昇任】

発令日	所 属	職 名	氏 名	前 所 属
R1. 10. 1	感染生体防御学講座	助教	廣瀬 昌平	感染生体防御学講座 助手
R1. 11. 1	(寄附講座)先進血液浄化療法学講座	准教授	畠山 真吾	泌尿器科 講師

【採用】

発令日	所 属	職 名	氏 名	前 所 属
R1. 9. 1	救急・災害医学講座	助教	野村 理	国立成育医療研究センター
R1. 10. 1	眼科学講座	講師	齋藤 昌晃	秋田大学大学院医学系研究科
R1. 10. 1	生体構造医学講座	助教	千葉 智博	弘前医療福祉大学
R1. 10. 1	循環器腎臓内科学講座	助教	澁谷 修司	大館市立総合病院
R1. 10. 1	耳鼻咽喉科学講座	助教	武田 育子	大館市立総合病院
R1. 10. 1	(寄附講座)不整脈先進治療学講座	助教	要 教嘉	社会医療法人近森会近森病院
R1. 10. 1	消化器外科学講座	助手	兼田 杏理	消化器外科、乳腺外科 甲状腺外科 医員
R1. 10. 1	消化器外科学講座	助手	梅津 誠子	消化器外科、乳腺外科 甲状腺外科 医員
R1. 10. 1	地域救急医療学講座	助手	長沖 隼英	医療法人誠仁会 尾野病院
R1. 10. 1	メタボロミクスイノベーション学講座	特任准教授	山本 博之	

【配置換】

発令日	所 属	職 名	氏 名	異 動 先 等
R1. 10. 1	救急・災害医学講座	助手	菅沼 拓也	麻酔科 助手

【任命】

発令日	所 属	職 名	氏 名	異 動 先 等
R1. 11. 1	(寄附講座)先進血液浄化療法学講座	教授	大山 力	

【辞職】

発令日	所 属	職 名	氏 名	異 動 先 等
R1. 9. 30	消化器外科学講座	助教	山名 大輔	市立函館病院
R1. 9. 30	耳鼻咽喉科学講座	助教	後藤 真一	青森県立中央病院
R1. 9. 30	地域救急医療学講座	助手	市川 奈菜	むつ総合病院

【任期満了】

発令日	所 属	職 名	氏 名	異 動 先 等
R1. 9. 30	附属子どものこころの発達研究センター	特任准教授	栗林 理人	保健学研究科 教授
R1. 9. 30	附属子どものこころの発達研究センター	特任講師	高橋 芳雄	保健学研究科 准教授
R1. 9. 30	附属子どものこころの発達研究センター	特任講師	足立 匡基	保健学研究科 准教授

● 附属病院

【昇任】

発令日	所 属	職 名	氏 名	前 所 属
R1. 9. 1	消化器外科、乳腺外科、甲状腺外科	講師	脇屋 太一	消化器外科学講座 助教
R1. 10. 1	呼吸器外科、心臓血管外科	助教	小渡 亮介	呼吸器外科、心臓血管外科 助手
R1. 11. 1	泌尿器科	講師	鈴木 裕一朗	泌尿器科 助教

【採用】

発令日	所 属	職 名	氏 名	前 所 属
R1. 10. 1	泌尿器科	助教	濱野 逸人	鷹揚郷腎臓研究所弘前病院
R1. 10. 1	放射線診断科	助教	藤田 大真	放射線診断科 医員
R1. 10. 1	産科婦人科	助教	山谷 文乃	大館市立総合病院
R1. 10. 1	呼吸器外科、心臓血管外科	助手	今村 優紀	呼吸器外科、心臓血管外科 医員
R1. 10. 1	泌尿器科	助手	堀口 裕貴	むつ総合病院
R1. 10. 1	麻酔科	助手	高橋 枝み	琉球大学
R1. 10. 16	集中治療部	助手	川口 純	つがる総合病院
R1. 11. 1	泌尿器科	助手	百田 匡毅	むつ総合病院

【配置換】

発令日	所 属	職 名	氏 名	異 動 先 等
R1. 10. 1	麻酔科	助手	紺野 真緒	救急・災害医学講座 助手

【配置変更】

発令日	所 属	職 名	氏 名	異 動 先 等
R1. 10. 1	総合臨床研修センター	助教	西崎 史恵	卒後臨床研修センター 助教

【辞職】

発令日	所 属	職 名	氏 名	異 動 先 等
R1. 9. 30	消化器内科、血液内科、膠原病内科	助教	樋口 博之	むつ総合病院
R1. 9. 30	泌尿器科	助教	相馬 理	大館市立総合病院
R1. 9. 30	泌尿器科	助教	松本 哲平	つがる総合病院
R1. 10. 15	集中治療部	助教	太田 大地	つがる総合病院

診療教授等新規称号付与者 (R1.9 ~ R1.11)

称 号	氏 名	所 属	期 間
診療講師	工藤 孝志	眼科	令和元年10月1日~令和4年9月30日

臨床教授・臨床准教授称号付与者 (令和元年10月1日現在)

称号名	氏 名	現 職	称号付与日	称号付与期間	推薦講座
臨床准教授	楠引 基	青森県立中央病院 循環器科副部長	2019年10月1日	2019年10月1日 ~2022年9月30日	循環器腎臓内科学
臨床准教授	福田 陽	むつ総合病院 整形外科部長	2019年10月1日	2019年10月1日 ~2022年9月30日	整形外科学

医学部ウォーカー第九十一号をお届けいたします。今回もお忙しい中多くの先生方から情報をお寄せいただきありがとうございます。最近の医学部ウォーカーを見ると、受賞報告が非常に目立っています。これは以前に比べ各学会で様々な賞を新たに制定していること以外にも、学内で受賞に値するような質の高い発表、論文が増えているおかげだと思えます。日常の忙しい診療に加えて、研究を行うことは並大抵のことではありません。受賞者の先生方の努力、苦勞はもろろんのことですが、それに加えて指導者の先生方の熱意にも頭が下がる思いです。さらには喜ばしいことは、今年でも医学部の五年生、倉君のように学生の受賞も目立つことです。研究室研修で講座配属されて、終了後もそのまま講座に通って研究を続けてくれるのが理想ですが、試験勉強をしなければいけないため学生もなかなか時間がありません。しかしながら、そのような厳しい条件の中においても学会発表できるまでがんばる学生も存在します。そのような学生が少しでも増え、受賞したことがある学生達が将来弘前大学医学部を牽引する存在になってくれることを願っています。(M)



編集後記